橋本高等学校

実施日時	令和４年１１月１日（火）　６限、７限
参加者	生徒 194名、教職員 14 名　計２０８名
実施内容	ＡＥＤ・救急法、止血法、簡易担架作り、ロープワーク

ねらい

本校では防災意識の向上と地域防災の担い手として自助・共助・協働の精神に基づき社会貢献できる人材の育成のため、毎年１年生を対象として防災スクールを実施している。今年度は自衛隊の方々に来ていただき、４限目に自衛隊の担当者から防災講話を聴いた。昼休憩後、５限目に全校生徒を対象とした避難訓練を実施し、その後、橋本市役所の方から避難場所や備蓄品等について講義を受け、６限目と７限目に防災スクールを行った。

防災スクールの実施内容については、本校が地域の避難場所になっていることや阪神淡路大震災・東日本大震災の教訓から、自衛隊の方々の指導の下、ＡＥＤ・救急法、止血法、簡易担架作り、ロープワークを行った。感染症対策のため、アルファ化米の炊き出し、配膳については実施せず、１人１袋を配布し家庭で実施してもらうこととした。

主なプログラム

１、ＡＥＤ・救急法

２、止血法

３、簡易担架作り

４、ロープワーク

概要

各クラスを４班に分け、体育館では各場所ごとにＡＥＤ・救急法、止血法、簡易担架作りを、武道場ではロープワークを各班ローテーションしながら行った。

（各２５分程度）

すべての行程終了後、感想を書かせた。

参加者感想文

・今回、防災スクールに参加して災害の時にはまず他の人を助けられるように自分の身をしっかりと守って落ち着いて状況を把握することが大事だとわかりました。そして、自分を守るためには今回学んだように災害時にすぐに動けるように普段から家の家具の安全を確かめたり、災害時に避難するのに必要な物をまとめてベッドの近くに置くなどの準備をしっかりとしないといけないとわかりました。

・もし、万が一の状況に置かれた時、私に何ができるのか何をすべきなのか、とっさの正しい判断力と行動に移せる勇気が必要だと思いました。今回の防災スクールでの学びをしっかり復習し、人ごとではなくて迷わず対応できる自分でありたいと思います。

成果と課題

【成果】

生徒たちはみんなで協力しながら各講習に取り組んでいた。多くの生徒が災害時に活かせる良い体験ができたと感想文に書いており、今後万が一災害が起こった時に地域の方々を助け支えることのできる若者になってくれると感じている。

【課題】

　感染症対策のため、以前のように地域の方々に来ていただけなかったり、アルファ化米の調理と試食ができなかったりと制限がある中での実施だったので、今後、感染症が治まってきた時にスムーズに以前の形に戻せるよう引き継ぎを行っていく必要がある。

各講習の様子

紀北工業高等学校

実施日時	令和４年１１月　２日（水）
参加者	生徒４２０名、教職員５０名　計４７０名
実施内容	避難訓練

ねらい

１、生徒及び教職員の防災意識の向上をはかると共に、災害発生時の基本的行動を学習する。

２、避難行動をする上での課題等を発見する。

主なプログラム

１、通報訓練

２、シェイクアウト訓練

３、避難訓練

４、橋本市消防本部による講評

概要

１、橋本市消防本部と連携し、訓練用緊急地震速報にあわせ、シェイクアウト訓練とその後校内で火災発生の想定の下全校生徒がグラウンドへ避難する訓練を行う。

成果と課題

【成果】

① 地震発生時の安全確保の方法を確認できた。

② 地震発生時の避難や火災発生時の消防署への通報方法等を確認できた。

③ 本校内の消防用設備の基本操作方法を確認できた。

④ 「地震発生→火災発生→避難行動」の順で、避難経路の確認および命の守れる行動の確認ができた。

【課題】

コロナ感染防止のための３密対策をするなかで、避難時における廊下などでの密集状態が一時的に起こった。

生徒の感想

・訓練を通じて、防災意識が高まりました。

・「命を守る行動」の確認ができました。

【消火係による手順の確認】

【橋本消防署伏尾様から講評】

【避難後点呼結果を報告】

紀北農芸高等学校

実施日時	２０２２年　１２月　２１日（水）
参加者	生徒６１名、教職員１５名、地域住民等０名　計７６名
実施内容	防災講演、α化米炊き出し訓練

ねらい

有事（地震・火災等）に備え、地域住民と連携し、防災知識・技術を高めることを目的とする。

主なプログラム

１　防災講演（災害への備え　地震編）

２　α化米炊き出し訓練

概要

１　自助・共助・公助の観点から、大地震が発生した際の備えや命を守るための行動について学んだ。また、炊き出し体験を通して、被災した際の自身の行動について考察した。

２　昨年度まで、新型コロナウイルスのため、外部からの講師をお招きすることを控えていたが、今年度は、日本赤十字社に依頼し、講演をしていただいた。しかし、感染拡大防止のため、今年度もまた、地域住民を招待することはできなかった。

参加者感想文

・防災講演「災害への備え　地震編」

（1 年男子）自分が思うより災害の備えは必要だなと思いました。今災害がおこってもいいように災害の備えをしたいと思いました。

（1 年女子）私の部屋はグッズを壁に飾っていたり、テレビやキーボードがあったりするので、ゆれて落ちるって考えると怖くなった。部屋を片付けるついでに飾っているものの位置を考えなおそうと思えた。

（1 年女子）災害とか津波とか地震があると命を失う人もいるので日頃から逃げる場所を確認しておいたり食品を集めていつでも避難ができるようにしたいです。周りにある建物には気を付けたいと思います。

（1 年女子）タンスと天井の間にちょうど合う段ボールを入れるとタンスなどが倒れにくくなるのを聞いてまたやってみようと思った。

（1 年女子）もし地震がおこった時の対処法などを聞いて、少しなら知っていたけど、より詳しく知れた

のでとても勉強になりました。

（1 年女子）今回の講演を聞いて自分の家は災害がおきたとき大丈夫なのか見直しをしてみたいと思った。非常食や懐中電灯は備えていたが、棚の固定やスペースの確保は見逃していたので、すぐに固定するようにしたい。また、避難所やハザードマップの確認を改めてするようにして、避難経路を考えるようにしたい。

（１年女子）地震の被害が怖いと思った。水を備えていないので備えようと思った。ブランケットやカイロなどの暖を取れるものを用意しておこうと思う。

（１年男子）地震、津波、大雨などによる災害から命を守り、暮らしをつなぐためには、災害と地域を知り、「自助」と「共助」の力を高めることが重要と知り、「自助」の力を高めるには、自分自身と家族のための備えを実行することが大切と知りました。そして、「共助」の力を高めるには、ご近所や地域にいる人と皆で協力しあう関係を日頃から築いておくことが大切と知りました。

（１年男子）自助と共助っていう言葉を初めて聞いた。自助は家族や自分を助けること、共助は周りの人を助けること。あとハザードマップを確認してどこに公衆電話があるとかを見て、もし地震が起きたら逃げる場所を確認しておこうと思った。

（１年女子）まだ大きな災害を経験したことがないけど、これからいつ起こっても大丈夫なように備えておこうと思いました。一人の時でも冷静に行動できるように避難する場所なども確認しておこうと思いました。

（１年女子）地震から命を守るために、非常時の持ち物の準備、ハザードマップで避難場所の確認をしておくなどの備えや、地震が起きた時に、机の下に入るや危険な物から離れるなどの行動をすることについて知ることができました。このことを知って、災害が起きた時のために、準備しておいたり、災害が起きた時に行動ができるようにしようと思いました。

（１年女子）地震の災害は怖いし、いつ起きるかわからないから揺れを感じたらパニックにならず、安全行動ができるかも不安です。警戒も必要だけど行動力、判断力も必要になるので高めていこうと思いました。

（１年女子）日赤の仕事や災害への備えなどたくさんのことを学ぶことができた。日頃から自分にしかできないことをして、もし大きな災害が起きても避難するときに使えるようにしたい。ハザードマップの確認が大切だと知れた。地震はいつ起こるかわからないし怖いから、いつ起きても大丈夫なようにしていきたい。

（１年女子）何回も防災についての話は聞いてきたけれど、やっぱり対策をするのが大切なんだと思いました。身を守るためにはまず地域の避難場所やどこが安全かというのを知るべきだと思いました。そこからどう対策していくか考えていきたいです。自分の家にはまだ防災グッズがないので近々買いに行きたいと思いました。

・α化米炊き出し訓練

（1 年女子）お湯を入れただけでできるで、すごく簡単で便利だなと思いました。カレーやチキンライスがあってすごかったです。食べてみると、意外とおいしかったです。

（1 年女子）袋に入っているのでサイズが小さく家に常備しやすくていいなと思った。もっと味がうすい

と思っていたけどしっかり味がして量もたくさんあってよかった。お米ももっと固いと思っていたのでやわらかくておどろいた。

（1 年女子）偏見だけど、自分はα化米あまりおいしくないんじゃないかと思っていたけど、いざ食べてみると思っていたよりおいしくて、もし災害の時に配られるとうれしいと思いました。

（1 年男子）はじめて保存食食べてみたけど、思った以上においしくて、非常な時に備えておきたいと思いました。

（１年男子）昔給食で食べたことがあります。今日α化米の炊き出し食べ、懐かしい味がしました。お湯で作って食べましたが、水で作ったらおいしいかなと疑問に思いました。今度は水で作って食べたいと思います。津波か地震が来て非常食はあるとしても火はどうするの？と感じました。念のため、水とカセットコンロは必ず用意したいと思います。

（１年男子）地震がおきてしまって、食べ物がなくなってしまったときに、水でも作って食べれるのはすごく便利だと思いました。

成果と課題

【成果】

今回の防災スクールで学んだことを生かして、地震に直面した時どのように行動しますかという質問に対して、「困っている人がいたら助ける」「パニックにならないように行動して、地域の方の安全も含め冷静な判断をできるようにがんばりたい」「地域の人と協力して初期消火をしたり助け合う」と感想に書いた生徒もおり、「自助」「共助」の大切さを学んだ生徒もみられた。また、いざ被災した際に、いかに事前の備えが大切であるかを学んだ生徒もおり、非常食のありがたさを実感したようであった。

【課題】

昨年度に比べ、新型コロナウイルス感染症もやや落ち着いてきたように思われ、今年度は、外部の講師や地域住民に来校いただき防災スクールを実施する予定であった。しかし、１１月に入って感染者数も増加傾向にあることを受け、地域住民の方に来校いただくことがかなわなかった。とはいえ、実際に災害が発生し、本校が避難所となった場合には、地域の方が来校することも想定される。コロナウイルス感染拡大を防ぎながら避難所の設営をしなければならないことを想定した防災学習を取り入れる必要があった。一刻も早くコロナウイルスの感染拡大が収束していくことを切に願う。来年度は、地域の方々にもご協力いただき、避難所としての本校の在り方を生徒とともに再確認していきたい。

防災講演

α化米炊き出し訓練

笠田高等学校

実施日時	令和４年 11 月７日（月）10：30～12：10
参加者	生徒２学年 156 名、教職員 13 名、地域住民等０名　計 169 名
実施内容	防災講話、心肺蘇生法、担架搬送法、止血法、ロープワーク

ねらい

１　防災意識を高め、自助・共助の精神を涵養し、自分の命を守り、地域防災のリーダーとなる生徒を育成する。

２　実践的な訓練を実施し、災害避難時に役立つ技術を習得する。

主なプログラム

１　防災講話

２　心肺蘇生法

３　担架搬送法

４　止血法

５　ロープワーク

概要

自衛隊和歌山地方協力本部の指導のもと以下の内容を実施。

１　防災講話

「自分たちができる身近な防災」

２　心肺蘇生法

看護師資格者による心肺蘇生の概要及び実施要領の展示・実習。

（AED・心臓マッサージ）

３　担架搬送法

毛布及び約２mの棒を２本使用し、応急担架の展示・説明及び実習。

４　止血法

止血及び骨折時における処置要領の説明及び実習。

５　ロープワーク

約１ｍ～２ｍのロープのもやい結び等の説明及び実習。

参加者感想文

・地震が起きたときに備えて、今回の訓練は役に立つと思います。自分の命だけでなく多くの命も救えて、とてもよいと思いました。

・ 将来、看護の道に進もうと考えています。あらためて人の命とはどういうものか、深く考えようと思いました。

・いざという時に、自分も誰かの役に立つことができるようになりたいと思った。

・実際に災害が起こった時の行動について家族で話し合ったりしていなかったので、しようと思いました。

成果と課題

【成果】

コロナ禍で２年間実施できていなかった防災スクールを２学年の生徒のみであるが実施できたことが１番の成果。また、参加した生徒は前向きに、真剣に取り組んでいる姿に頼もしさも感じた。

【課題】

地域住民の方々や近隣の笠田小学校、笠田中学校からも参加していただき、地域全体の防災や共助の意識を高めるまでに至っていない点が課題である。

粉河高等学校

実施日時	令和５年　２月　１日（水）
参加者	生徒２２６名、教職員２０名、　計２４６名
実施内容	マイトイレ作り、パーティション作成、防災ハンドブックでの学習。アルファ米の配布。

ねらい

１、日頃の備えや訓練の大切さを学ぶ。
２、災害発生時に、地域・学校・家庭等で高校生としてできること、助けられることを身につける。

主なプログラム

１、防災学習、マイトイレ作り
２、パーティション作り
３、水、アルファ米配布、説明
４、振り返り

概要

１、新聞紙を使ってマイトイレの作り方を学び、災害時のトイレの重要さを知る。

２、防災ハンドブックを見ながら、防災学習をする。特に「災害時自宅にいた場合の注意点」「外出先にいた場合の注意点」「家族で事前に話し合っておくこと」などを中心に学習する。

３、段ボールのパーティションを組み立て、実際にその中へ入り、広さや防寒性等を体感する。

４、アルファ米と水を配布し、本日の感想文を書く。

参加者感想文

・今日災害用のトイレ作りを学んだので、実際に災害がおきた時にすぐ実践したいです。パーティションで自分のプライベートも守れるので、実際に避難所で過ごす際は、率先して組み立てたいです。マジックライスの梅じゃこご飯をもらったので、今日帰ったら避難時用のリュックに入れようと思います。また、今日は家族と避難場所や災害時の連絡方法について話し合いたいです。

・今日の防災学習を通して、大きな災害は本当にいつ起こるか分からず、いつ自分の家が倒壊し、避難所で生活することになってもおかしくないと、改めて感じました。それなのに普段から何も準備をしていないこと、避難所でのことやトイレのことなど、何の知識もないことに危機感を覚えました。今日学習したことを、しっかり覚えておきたいと思います。

・マイトイレは思っていたよりも簡単に作ることができたので、実際に災害が起こった時に今日の事を思い出して作ってみようと思います。防災ハンドブックを読んで、傷の処置やＡＥＤの使用法なども知ることができ、いざという時に役立てることができそうです。パーティションの中に実際に入ってみて、意外と広く感じました。プライバシーが守られることでストレスが軽減されるし、暖もとりやすいと感じました。

成果と課題

【成果】いつ大きな災害が起きてもおかしくなく、その際は自分や家族の身を守ることはもちろん、地域の一員として率先して行動しなければならないという意識付けができた。また、生徒は積極的に活動し、知識や経験を積むことができた。

【課題】

パーティション用の段ボールのマジックテープが外れていたり、粘着力が弱っていたりするものがあったので、次年度は事前に一枚ずつ確認し、補強しておかなければならない。

粉河高等学校定時制

実施日時	令和４年１１月２日（水）
参加者	生徒６名、教職員４名、地域住民等０名　計１０名
実施内容	シェイクアウト訓練、世界津波の日についての学習、「地震・津波防災について」DVD 視聴等

ねらい

１　近い将来予想される南海・東南海地震をはじめ自然災害に備えて、自身の身を守る行動を素早くとる。

２　生徒に防災・減災に関する専門的な知識や技術を習得させ、防災への意識を高める。

主なプログラム

１　シェイクアウト訓練

２　世界津波の日についての学習

３　「地震・津波防災について」DVD 視聴

概要

１　地震発生とともに、素早く自分の身を守る行動をとり、安全を確保しながら避難する。

２　担当教諭から「世界津波の日」制定に係る経緯についての講義。

３　南海・東南海地震について、場面ごとの避難方法について DVD にて学習。

参加者感想文

・実際その場に遭遇したときに適切な行動をできるか不安です。

・地震は学校に居るときだけ、起こるとは限らないので、いろんな場所での避難方法を知っておかなければいけないと思いました。

・家の家具など倒れないようにしておきたい。

・大きな地震が起こって身動きが取れなくなった場合、安否確認の方法を、家族で話し合っておきたい。

成果と課題

【成果】

地震が起こった際、自分の身は自分で守ることの大切さや日ごろからの防災対策の必要性を学んでくれたことと思います。定時制の生徒なので、「バイクや車に乗っていた時、地震が発生したらどうしよう？」と悩んでいたので、少しは真剣に考える良い機会であった。

【課題】

大きな地震が起きれば、他人と協力して被災者を助けなければならない。そのために、応急処置の学習を取り入れる必要がある。

那賀高等学校

実施日時	令和４年１１月２日（水）
参加者	生徒７９５名、教職員５９名　計８５４名
実施内容	シェイクアウト訓練、地震避難訓練他

ねらい

１県内全域を対象とする地震・津波避難訓練を「世界津波の日」に併せて実施する

２地震・津波に対する防災意識の高揚を図る

主なプログラム

１情報伝達訓練

２シェイクアウト訓練

３「津波防災の日」「世界津波の日」「稲むらの火」についての学習

４避難場所の確認

概要

１、午後１時２０分頃生徒に予告無しで実施。通常授業時での対応（非常勤の授業も含む）

２、シェイクアウト訓練後、避難訓練実施。校長講話や事後のＬＨＲにおいて、防災についての学習を深める

参加者感想文

・巨大地震に備えておく心構えが必要打ということがわかった。

・高校生として、自分の身の安全を確保した上で、弱者の救助に当たらなければいけない。

成果と課題

【成果】

・予告無しでも、冷静かつ迅速に行動できた

【課題】

・本年度も従来規模の防災スクールが実施できなかったが、次年度は工夫をして実施したい。

貴志川高等学校

実施日時	令和４年　１１月　４日（金）
参加者	生徒２８５名、教職員４０名、協力団体等３７名　計３６２名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難訓練、防災ゲーム、AED使用法、止血法 車いす避難サポーター養成講座、ロープワーク、自衛隊車両展示　等

ねらい

１．近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、高校生の防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とする。

２．関係機関や地域の協力、連携のもと、防災・減災に関するより専門的な知識や技術を習得することを目的とする。

主なプログラム

１,２年生　防災ゲーム、AED、止血法
　　ロープワーク、自衛隊車両展示
３年生　車いす避難サポーター養成講座
　　AED
全体　シェイクアウト訓練、避難訓練

概要

〇１,２年生・・防災ゲームを実施。地震・津波災害時に、避難場所までたどり着くまでの課題を体験し事前の備えを学ぶことができるボードゲームをグループで行った。また、自衛隊実施の各プログラムも体験し、災害等が起きた際の身を守るための知識、行動を学んだ。

〇３年生・・車いす避難サポーター養成講座を受講。災害時に避難経路上に想定される障害物、コースを体育館に設定し、要配慮者等を安全に避難場所に移動支援する体験をした。

〇紀伊半島に震度７の南海トラフ地震が発生したと想定。教室内にいる生徒は、安全確保のために机の下にもぐり、身を守るシェイクアウト訓練を実施した。その後、生徒ホールからの出火に伴い、全校生徒が各教室から各避難経路を利用し、グラウンドに避難する訓練を実施した。

参加者アンケート

・災害がいつ起こっても対応できるように、事前に準備しておくことが大切だと感じた。

・AEDや止血法など、今回の体験を活かし、いざとなったときは行動を起こしたいと思う。

・防災ゲームにおいて津波が迫ってくるスピードはとても早いと認識できた。災害時の備えも学ぶことができた。

・グラウンドに避難する際は落ち着いて、慌てず行動するように気をつけた。

成果と課題

【成果】今年度は各外部団体の協力を得て防災スクールを実施できたことはよかった。生徒たちは各団体の方と交流し、各プログラムに積極的に取り組むことができた。また、事後アンケートの結果、約９０％の生徒は防災に対する知識や理解を深めることができたと回答した。

【課題】新型コロナウイルス感染症が蔓延しているしていないに関わらず、地震や災害はいつ起こるかわからない。常に、それらが発生したことを想定し、どう対応すべきかを訓練しておく必要がある。来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染状況に応じて、防災スクールを実施していくことが必要である。

①防災ゲームの様子
②AED・心肺蘇生法体験の様子
③車いす避難サポーター養成講座の様子
④⑤シェイクアウト・避難訓練の様子

①

②

③

④

⑤

和歌山北高等学校北校舎

実施日時	令和４年１１月２日（水）
参加者	生徒８５９名、教職員６０名　計９１９名
実施内容	避難訓練、地震と津波についての学習、マイトイレ作り　等

ねらい

１　災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。

２　災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。

３　自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

４　実際に災害が発生した際、安全に避難できるように避難の方法に慣れておく。

主なプログラム

１　防災についての学習及びシェイクアウト訓練

２　ＤＶＤ鑑賞及びマイトイレ作り

３　校外避難訓練

概要

１　令和４年１１月２日（水）２限
全校生徒８５９名　職員６０名
場所（各クラス）

・事前にシェイクアウト訓練の内容について周知するとともに世界津波の日リーフレットの説明を行う。また、校内避難経路及び校外避難経路の再確認を行った。

・１０時の校内緊急校内放送により直ちにシェイクアウト訓練を開始した。一分間その場で先ず低く、頭を守り、動かない行動を行った。

２　令和４年１１月２日（水）３限
１年生８クラス３２０名　職員１８名
場所（体育館）

・津波防災啓発ＤＶＤ「犠牲者ゼロをめざして～巨大地震を生き抜く授業～」を視聴し、地震、津波について防災知識を高めるための基礎的な学習を行った。また、防災ハンドブックを使用し防災に関する情報を伝達した。

・防災ハンドブックを活用しながら、マイトイレ作成についての趣旨及び手順の説明を行い、生徒全員が新聞紙を使用しマイトイレを作成した。

３　令和４年１１月２日（水）４限
１年生８クラス３２０名　職員１８名

・事前に校外避難経路の確認として、学校より避難先である平井中央公園までの約１２００ｍの避難経路をビデオ撮影したものを視聴し、その説明を行う。

・南海トラフ巨大地震等が発生した場合の、津波からの避難場所として、第１目標として指定されている平井中央公園までクラスごとに徒歩による避難訓練を行った。

参加者感想文

・先ずは自分を守る方法を身につけ、これからは被災者の救助やサポートなどができるようになりたいです。

・稲むらの火についても学習でき、いかに迅速な行動が必要であるかが分かった。

・万が一の時は家族で決めた避難場所で会うことができるように、家に帰って家族と話し合い、家族全員で生き残り、犠牲者ゼロを実現したいです。

・簡易トイレは、もしもの時に役立つと思うから作り方が分かり良かった。

・地震のメカニズムや防災に関することをしっかり学び、実際起こったときに自分がどのように行動すべきかをイメージしておく必要があると感じた。

・校外避難経路は実際の経路の映像を見ながら説明を聞いたので、ある程度のイメージできた。しかし、地域住民も一斉に避難することもイメージすることも必要と感じた。

・意外とアルファ化米はおいしくいただくことができた。カレー味が人気でした。（今年度は家庭に持ち帰り）

成果と課題

【成果】

近い将来発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え、防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とし地震や津波についての理解、防災の大切さについて学習が深まった。また、避難経路についても確認することができた。

【課題】

地域の自治会や公民館と協力して合同防災訓練も検討していきたい。また、近隣の小学校と連携して避難訓練も実施できればと考えている。

和歌山北高等学校西校舎

実施日時	① 令和４年　６月１５日（水）、１２月１５日（木） ② 令和４年　７月　１日（金） ③ 令和４年１２月　６日（火） ④ 令和４年１２月　８日（木）～令和５年３月 ⑤ 令和４年１２月１３日（火）、令和５年１月１１日（水）・１３日（金）
参加者	生徒２７６名、教職員３４名、地域住民等３０名　延べ計 1,050 名
実施内容	下記に記載のとおり

ねらい

１　災害発生時に自分・他人の命を守る行動ができるよう、防災に関する知識をしっかりと修得する。

２　自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解するとともに、安全に避難できるように避難方法等を確認しておく。

主なプログラム

① シェイクアウト訓練
（さくら支援学校との合同）

② 救命・救急法講習

③ 避難誘導訓練

④ ハザードマップ調べ学習

⑤ 津波 DVD 鑑賞

概要

①　地震が発生したことを想定し、身を守るための初期動作の確認として、全校一斉のシェイクアウト訓練を併設施設である「さくら支援学校」と合同で２回行った。

②　２年生のスポーツ健康科学科３５名が「水泳実習」のプログラムとして日本赤十字社和歌山支部の協力をいただき、心肺蘇生法等の講習を行った。

③　西脇保育所（児童・保育士約 30 名）が実施した本校高台への避難訓練にあわせて、教職員による誘導訓練を行った。

④　地域で想定される自然災害について考える中で避難意識を高めるため、全学年でハザードマップや避難場所等の確認を行った。

⑤　３年生３クラスにおいて、津波発生時の対応等についてのDVDを視聴し、防災意識を高めた。

参加者感想文

・災害が発生した場合、まず自分自身の命を守る行動をとることが重要だと感じた。

・自分の周りで人が倒れた時など、その人の命を助ける行動が必要だと感じた。心肺蘇生法等の講習を受けることができ、すごく良かったと思う。また、このような機会があれば積極的に参加していきたい。

・自然災害を常日頃から意識して生活をすることが大切だと思った。また、家族がバラバラになった時にどこを避難場所にするかなどを話し合うことが大切だと感じた。

・ハザードマップを頭に入れておくことが重要であるが、ハザードマップを信じすぎずに率先して避難することも考えておかなければならないと思った。

・津波のDVDを見て、地震により津波が来そうになったら、自分ひとりでも逃げることが重要だと思った。まずは自分の身を守る行動が大切だと思った。

成果と課題

【成果】

さくら支援学校と合同でのシェイクアウト訓練を２回実施したが、１回目の訓練より２回目の訓練の方が迅速に自分の身を守る行動がとれていた。また、複数の学習により、近い将来に発生が予想されるであろう「南海トラフ地震」をはじめとする自然災害について、防災の大切さについても理解を深めることができた。

【課題】

今年度についても全校生徒による大規模な防災教育（学習）を行えていない。今後、更に防災に対する意識を高めるため、全校生徒による防災教育ができるよう計画していきたい。また、地域全体として災害に備える体制の構築に向け、地域の方々との合同防災訓練についても検討していきたい。

和歌山高等学校

実施日時	令和４年９月３０日（金）、１１月１８日（金）
参加者	生徒３９８名、教職員５０名、地域住民等０名　計４４８名
実施内容	避難訓練、シェイクアウト訓練　等

ねらい

１　防災意識を高める

２　訓練を通して災害に備えて行動できるようにする

主なプログラム

１　校舎外への避難訓練

２　シェイクアウト訓練

３　防災ハンドブック等による防災学習

概要

１　冷静かつ迅速に避難する訓練

２　緊急地震放送によるシェイクアウト訓練

成果と課題

【成果】

防災意識を高めることができた

【課題】

・新型コロナ感染症対策および近畿高等学校総合文化祭の時期と重なり、従来どおりの高校生防災スクールが実施できなかったので、避難訓練と緊急地震放送によるシェイクアウト訓練を代替措置として実施した。コロナ感染症の状況をみながら次年度は本来の防災スクールの実施に向けて取り組んでいく。

向陽高等学校

実施日時	令和５年　３月２３日（木）
参加者	生徒２６６名、教職員２４名、和歌山市危機管理部総合防災課９名 自衛隊和歌山地方協力本部１０名　和歌山東消防署２名　計３１１名
実施内容	炊き出し・配給訓練、防災グッズ製作、マンホールトイレ設置見学、 パーティション設置訓練、防災DVD視聴、救急法・搬送法・ＡＥＤ操作

ねらい

１　高校生が災害時に主体的に行動するための知識・判断力を身につけさせる。

２「自助・共助・公助」を実践し、地域社会に貢献できる生徒を育成する。

主なプログラム

１　炊き出し・配給訓練

２　防災グッズ製作

３　パーティション設置訓練

４　マンホールトイレ設置見学

５　救急法・搬送法・ＡＥＤ操作

６　防災 DVD 視聴

概要

１　非常食「α米」の作り方を確認する。（コロナ対策のため、自宅で試食させる。）

２　教室で防災グッズ（マイトイレ・レインコート、スリッパ）を各自で製作する。

３　体育館でクラス単位で組み立て、住居スペースを体験し、片付ける。

４　校内のマンホールトイレの設置方法を見学し、和歌山市職員から説明を受ける。

５　体育館で自衛隊員が救急法・搬送法・ＡＥＤ操作の実演を行い、生徒も実践する。

６　和歌山市消防局のＶＲ体験車で地震・津波のＶＲ体験を行う予定であったが、雨天のため「防災 DVD」の視聴に変更した。

参加者感想文

感想文は書いていない。

成果と課題

【成果】　例年は地域住民に参加してもらって、避難所運営訓練を行っていたが、コロナ感染拡大以降実施できていない。今回は、生徒が密にならないように、複数のプログラムを用意して一定時間で巡回する方式をとった。そのため、生徒は興味関心を持ちながら集中して取り組んでいた。外部機関の協力を得ることができ、自衛隊のきびきびとした実演を見たりして生徒にとって大きな刺激になった。

【課題】　本校では、高校２年で「防災リーダー養成講座」、「ミニ避難所運営ゲーム」を行っている。活動では、教員が指示するのではなくできるだけ生徒同士の協力で問題解決させたいという目標を持っている。その最大の実践の場が３月の「防災スクール」である。今年度は、with コロナの状況となってきており、生徒同士が活動しながら体験をすることができている。今後は、地域住民と活動をするなど、主体的に社会と関わる機会としても活動を広げたい。

桐蔭高等学校・中学校

実施日時	令和５年１月２６日（木）１４時１０分～１５時
参加者	生徒２７８名（高２）＋生徒２４１名（中学１、２，３年） 教員　高校１２名、中学８　計５３９名
実施内容	避難所で出来ることは何か。避難所に必要な物質は何か。 ハザードマップを確認する。

ねらい

１　桐蔭中学・高校が避難所に指定されていることから、実際に避難所の運営に関わって、桐蔭高校生（桐蔭中学生）として、運営に協力できることは何かを、具体的に考えさせる。

２　和歌山市のハザードマップを紹介して、実際に起こりうる自然災害を各自想定して、自分の取る具体的行動を各自が意識するように啓発する。

主なプログラム

１　パワーポイントによる自然災害（東南海地震）が起きた場面を想定させ、自分自身の取るべき行動を擬態的に各自に考えさせた。

２　和歌山市が作成したハザードマップを紹介して、自分自身の居住地域の津波想定を各自に確認させた。この時、ハザードマップを完全なものとして利用しないように注意をした。

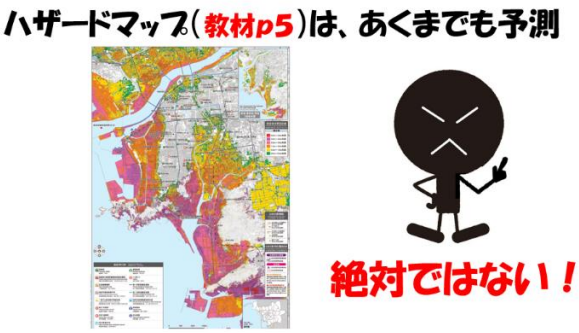
３　中学生と高校生が混在する班をつくり、実際に避難所になった場合に、自分たちに出来ることは何かを、和歌山市の避難所運営本部・活動班の役割例を参照しながら考えさせた。

４　体育館で実施し、実際に避難所になった場合にどんなものが必要かを考えさせた。

概要

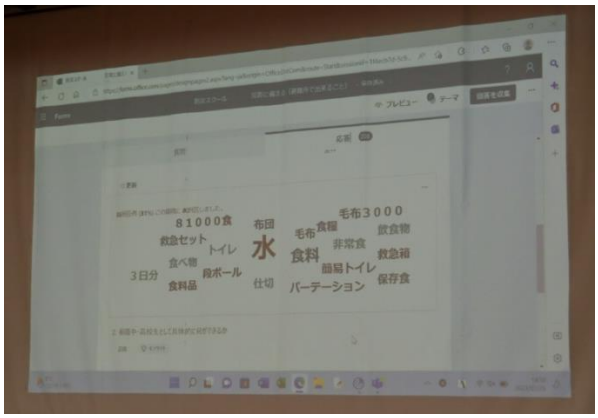
体育館に中学生と高校生が混在するようにあらかじめ６６班（１班７～８名）に分けて防災スクールを実施した。１０分でグループごとに車座に座り、次の１０分でパワーポイントによるプログラム１番と２番を全体に対して実施した。残り２５分間で互いの自己紹介も含めて、プログラム３番と４番の協議と集計を実施した。各班の記録用紙を提出して終了。

参照図（パワーポイントで用いたもの）



体育館でのグループ協議の様子

協議結果をフォームズで集計し共有している様子



参加者感想文

年間の最後のまとめで生徒各自に振り返りをさせる予定であるので、今回は感想を書かせていない。

成果と課題

【成果】

自然災害に対する心構えを、改めて意識付けすることが出来た。異学年による協議および体育館という場所の設定で、より避難所の場面を具体的に想像させることができた。

【課題】

協議結果を全体にプレゼンさせる時間を確保したり、実際に段ボールによる区切りを取り入れたり、地域住民を入れた協議を行う取り組みを加えてもよかった。実施時間が、１時間枠（５０分間）で実施したのだが、２時間枠で考えると上記に挙げたものもいくつか取り入れることができるので次回は考えたい。

和歌山東高等学校

実施日時	令和４年１１月２日（水）、１１月４日（金）
参加者	生徒４８１名、教職員５０名　計５３１名
実施内容	シェイクアウト訓練、防災学習等

ねらい

１　生徒の防災への意識を高める。

２　郷土の偉人の業績を知る。

３　災害発生時において、生徒が自らの命を守る行動ができるようにする。

主なプログラム

１　シェイクアウト訓練

２　「世界津波の日」濱口梧陵に関する学習

概要

１　全学年の生徒、教職員が地震及び津波を想定し、命を守る行動がとれるようシェイクアウト訓練を行った。

２　全学年の生徒が「世界津波の日」濱口梧陵のパンフレット等を活用し、郷土の偉人の業績について学習した。

参加者感想文

・濱口梧陵が稲むらに火をつけ、津波から逃げ遅れた人を高台に導き、多くの命を救ったことを知ることができた。

・和歌山県で濱口梧陵のような人がいたことをはじめて知った。

・災害後に村の存続を願い、防災と村人を助けるために堤防づくりまでしたことに驚いた。

成果と課題

【成果】

・近い将来、起こると予測されている南海トラフ地震等の自然災害に向けて、自助、共助についての意識が高まった。

・郷土の偉人の業績について知ることができた。

【課題】

・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、グループワーク等の実践的・体験的な学習ができなかった。

・感染防止の観点から、地域の方々と連携した実施が困難であった。しかし、災害時の高校生に寄せる地域の期待は大変大きいので、今後、地域と連携・協働した防災スクールを実施し、地域社会に貢献できる防災リーダーを育成したい。

和歌山工業高等学校

実施日時	第１回　令和４年　８月　１日（月） 第２回　令和４年１１月　２日（水）
参加者	生徒９８７名、教職員１０２名　計１０８９名
実施内容	地震防災についての講演会 シェイクアウト訓練・地震津波避難訓練　等

ねらい

１　防災と向き合い、正しい知識・判断力・行動力を身につける。

２　災害発生時に身の安全を確保し、すみやかに避難行動に移せるようにする。また「自助」・「共助」の意識を身につけさせる。

主なプログラム

１　講演会「地震防災についての基礎知識」

２　避難訓練・シェイクアウト訓練

３　災害時の役割分担の確認と「避難カード」「防災ナビアプリ」の活用

概要

１　講演会「地震防災についての基礎知識」

《体育館での講演会の様子》

和歌山県危機管理・消防課の「出張！減災教室」を活用し、登校日に１年生を対象に防災についての講演会を実施した。

・実施日　令和４年８月１日（月）
・場所　和歌山工業高等学校　体育館
・対象　１年生　３４３名（９クラス）
　　職員　１８名
・講演テーマ「地震津波についての基礎知識」
・講師　（県）学校教育局教育支援課
　　指導主事 小池 亨 氏

２　避難訓練・シェイクアウト訓練

《シェイクアウト訓練 様子》

全国で実施される緊急地震速報にもとづき、「大地震発生にともなう津波警報が発令された」との想定で、シェイクアウト訓練・避難訓練を実施した。全校生徒が本館３階以上への避難訓練を行った。

・実施日　令和４年１１月２日（水）
・対象　全学年　９８７名（27 クラス）

全職員　　１０２名

３　災害時の役割分担の確認と「避難カード」「防災ナビアプリ」の活用

避難訓練後に、各 HR で非常災害時における生徒の役割分担（消火班、搬出班、救護班、警備班、避難誘導班など）の確認を周知させる事後指導を行った。

また、和歌山県危機管理局防災企画課の「かけがえのない命をまもるために」のパンフレットを活用し、「避難カード」「防災ナビアプリ」について説明した。

・実施日　令和４年１１月２日（水）

・対象　全学年　９８７名（27 クラス）

参加者感想文

・大地震がきたときの、津波の恐ろしさを改めて考えさせられた。また、災害時には自分の身を守ることも大切だが、友達と協力して他の人を助けることも大切だと思いました。

・津波が来ると大変怖いと思っていたが、落ち着いて避難することが大切であることが分かりました。

・避難訓練があると聞いていたが、いつあるのか分からなかったが、放送が入って落ち着いて避難することができた。

・防災アプリについて、万が一の災害のために活用していきたい。

成果と課題

【成果】

１ 年生を対象に「地震津波についての基礎知識」のテーマで講演を行った。南海トラフ地震が起こると、本校では津波の浸水域に入って１～２mの浸水が予想されることなどが紹介され、震災発生時の「自助」と「共助」大切さについて学習することができた。暑い中での講演であったが、参加した１年生は防災意識の必要性について、しっかりと学習することができた。

避難訓練・シェイクアウト訓練では、自分の身を守り、迅速に避難することも大事であるが、今年度は次の３点について意識を持って取り組むことにした。

訓練のポイント

① 授業中に発生した現実的な訓練とすること

② まずは、自分の身を守る「自助」

③ 地域の避難場所として、「共助」について考える

避難指示の放送のあと、13 分で約 1000 人の生徒が避難を完了することができた。

その後、事後指導として災害時の防災役割

分担の周知、県の「防災ナビアプリ」の活用についても、今年度はじめて取り組んだ。現在の生徒は、スマホの活用が当たり前になっている中、「防災ナビアプリ」の活用も積極的に呼びかけることも大切である。

【課題】

　防災についての意識を高めるために、「共助」の視点が今後大切である。「自助」については、高校生自身ある程度の自己防衛が可能である。しかし、「共助」の意識をどのように身につけさせるかが、今後問われている。

　特に本校は、校舎が新しく地域の防災拠点としての役割もある。この点からも今後は、地域と連携した防災・避難訓練なども必要になってくる。本校の生徒に対し「共助」の意識づけと、地域との連携が今後の大きな課題である。

和歌山工業高等学校定時制

実施日時	令和４年　９月16日（金）１８：４５～21：10
参加者	生徒９名、教職員４名、地域住民等０名　計１３名
実施内容	「出張！減災教室」地震体験車、きいちゃんの災害避難ゲーム

ねらい

１、近い将来予想される南海トラフ地震をはじめとする自然災害に備え、防災への意識を高める。

２、社会貢献できる地域防災の担い手として活躍できる、防災リーダーの育成を図る。

主なプログラム

１、地震体験車による地震体験

２、きいちゃんの災害避難ゲーム（津波から逃げ切ろう）

３、感想文

概要

１、二人一組で地震体験。

２、避難計画をたて計画どおりに避難することや、現場の実態に即した臨機応変な対応ができるよう、ボードゲームを使って学ぶ。

参加者感想文

※地震体験

・地震の怖さを知った。 ・弱と強の違いがすごかった。 ・少し怖かった。

・大きな地震は立てないと思った。 ・震度の数値より体感がすごかった。

※きいちゃんの災害避難ゲーム

・楽しく学べた。 ・事前に準備をしておくと災害に備えられる。 ・他学年の生徒と楽しめてよかった

成果と課題

【成果】

　地震体験車では、設定された震度での揺れを想像して実際に体験すると、想像より大きな衝撃を受け、地震のすごさを体験できたと同時に、日ごろから地震に備える大切さを学んだ。

　また、きいちゃん災害避難ゲームでは、ゲーム形式で親しみやすく参加でき、また点数化されて結果がわかりやすいので、競い合うなかで迫りくる危機を想定し、突発的に起こる危機に臨機応変に対応することの難しさを体験できた。

【課題】

・参加生徒数が少ないことは毎年の課題である。

・防災スクールで学んだ内容を発表するなどの取組も重要であるので、今後検討したい。

和歌山商業高等学校

実施日時	令和４年１１月１日（火）
参加者	生徒８０４名、教職員５８名　　計８６２名
実施内容	地震避難訓練、防災ハンドブックを活用した防災教育　等

ねらい

１　近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する専門的知識や技術を習得させる。

２　地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成。

主なプログラム

１　避難訓練

２　防災ハンドブックの活用

概要

１　南海トラフ地震による津波を想定し、校舎３階以上への垂直避難を行う。

２　防災ハンドブックを活用し、大地震が発生した際に命を守るために取る行動を確認する。また、大地震に備えて家庭でできることや避難所で生活することになった場合にできることを確認する。

参加者感想文

- 昨年度と比べて早く避難することができたと先生から聞いてとても良かった。
- 防災ハンドブックをみて、自宅周辺の避難場所を確認しようと思った。

成果と課題

【成果】昨年度と比べ、迅速な避難ができた。（昨年度８分程度、今年度６分程度）
防災ハンドブックを活用することにより、命を守る行動や地震に備えて家庭でできることを考えさせることができた。

【課題】３階以上に避難はしたが、最初に上がってきたクラスが手前で立ち止まったケースも見受けられた。
来年度はコロナウイルスを考慮して実施できなかった避難所作りなどを行いたい。

海南高等学校

実施日時	令和４年１２月１４日（水）
参加者	生徒３７９名、教職員１６名　計３９５名
実施内容	防災学習、講演、救命救急法・搬送法、避難運営ワーク、ロープワーク 段ボールベッド作製、車いす体験、マイトイレ作り

ねらい

１　近い将来起こると危惧されている南海トラフ巨大地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する知識や技術を身につけ、防災への意識を高める。

２　地域の防災を担うリーダーを育成する。

主なプログラム

１　防災アプリ活用法

２　減災セミナー（ロープワーク）

３　救命救急法・搬送法

４　避難者体験（段ボールベッド製作体験）

５　車いす体験

６　避難所運営ワーク

７　防災クイズQ&A、マイトイレ作り

８　講　演

概要

防災に関する下記の６部門のブースを体育館に設置し、１年生は５限目に２年生は６限目に希望する２ブースに参加する形で実施した。

１　防災アプリ活用法　　［県防災企画課］

２　減災セミナー（ロープワーク）
［日本赤十字社和歌山県支部］

３　救命措置法・災害搬送法　［海南消防署］

４　避難者体験（段ボールベッド製作体験）
［海南市危機管理課］

５　車いす体験　　［海南市社会福祉協議会］

６　避難所運営ワーク　　［海南高校］

７　防災クイズQ&A、マイトイレ作り

６限目、１年生はさらにＨＲ教室でボランティア委員が中心となりＰＰを用いた防災クイズＱ＆Ａを実施し、減災のための具体的な方法を学んだ。また、新聞紙を用いたマイトイレ作りを行った。

８　講　演

２年生は5限目に、海南市危機管理課の方から「訓練や事前復興計画策定の中で見えてきたこと」と題する講演を聞き、当地域の概略、海南市の地域資源や防災・減災関連事業、巨大地震後のまちの復興における高校生の役割などについて学んだ。

参加者感想文

・和歌山県防災ナビというアプリがあることを今回初めて知り、様々な機能について学ぶことができた。現在地から近い避難場所や避難ルート、気象情報、津波シュミレーションなど災害が起こったときに役立つアプリで、家族や友達とも共有し活用したいと思った。

・ロープ１本でいろんな結び方があってとても面白かった。今日教えてもらったことをしっかり覚えておいて災害の時に役立てたい。

・心臓マッサージの方法はもちろん大切だけど、それ以上に倒れている人を見つけたときに声をかける勇気、周りの人に知らせる勇気をもつことが大切だと教えていただき、とても心に響いた。ひとつの行動で結果が大きく変わることを再確認できた。

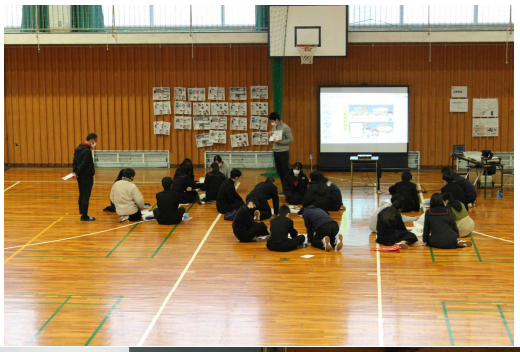
・車椅子は押すだけと思っていたけれど、細かな操作方法があり、また段差・階段を乗り越えるときにはかなり力が必要であり声掛けも大切であることなど、知らないことを多く学べた。車椅子を押す機会があれば、今回の講習で得た知識を活用したいと思う。

・災害発生時に避難所で発生すると考えられるトラブルや問題にどう対処するか、他のクラスの人と協力して考えることができた。

・慣れない避難所生活によって不安や不満があっても、地域の人とコミュニケーションをとり工夫していくことが大切だと強く思った。また、冷静になることや状況によっては思い切って判断することも必要だと感じた。

・簡易トイレ作りでは身近なものでトイレが作れること、クイズでは避難する時に必要なものなど沢山の知識を身につけることができた。

・南海トラフ地震が来てもおかしくない今、日頃からの備えや心構えが必要だと思った。そして、災害後の復興を今から考えていくことも大切だと感じた。



成果と課題

【成果】

今年度は、感染対策に配慮しながら、地域の関係機関の協力を得て6部門のブースを設け、防災スクールを実施した。各ブースでは体験活動を行い、災害時には自助、公助、共助の意識をもって命を守る行動をすることの重要性を再確認した。災害が起こったとき今回学んだことを少しでも実践できるようにしたい等の感想が多くみられ、防災意識を高める機会となった。

【課題】

コロナ禍は収束していないが、災害はいつでも起こり得ることを踏まえ、感染対策を徹底しながら実践的な防災スクールを継続していく必要がある。今後は海南市が実施している避難訓練への積極的な参加などを検討する必要がある。

海南高等学校　定時制

実施日時	令和４年９月３０日（金）、１１月４日（金）
参加者	生徒３名、教職員７名、地域住民等０名　計１０名
実施内容	避難訓練（垂直避難訓練・図上避難訓練・シェイクアウト避難訓練）、避難所での生活の学習・アルファ米の調理、防災動画の視聴

ねらい

１．近い将来起こると想定されている南海トラフ巨大地震などの自然災害に備え、防災・減災に関する基礎的事項を系統的に理解し、防災への意識を高める。

２．地域防災の担い手として社会貢献できる青少年を育成する。

主なプログラム

１．ハザードマップを用いた図上防災訓練

２．洪水を想定した垂直避難訓練

３．シェイクアウト避難訓練

４．避難所での生活について

概要

１．９月 30 日に実施したハザードマップを用いた図上防災訓練および、洪水を想定した垂直避難訓練では、学校周辺のハザードマップを用いて、洪水時の浸水想定や土砂災害の危険区域を確認し、学校周辺の避難場所や安全な避難経路の確認を行った。その後、自宅周辺のハザードマップを用いて、自宅周辺の避難場所の確認と安全な避難経路について図上避難訓練を行った。

２．11 月４日に実施した、シェイクアウト避難訓練および避難所での生活の学習では、南海トラフ巨大地震について動画教材で学習した後、緊急地震速報が発表されたことを想定して、シェイクアウト避難訓練を行った。その後、防災ハンドブックをテキストとして避難所での生活について学習し、最後にアルファ米非常食の調理実習を行った。

参加者感想文

・垂直避難訓練では、素早く安全に避難することが出来た。

・ハザードマップで自宅周辺の危険な場所がよくわかった。

成果と課題

【成果】

学校周辺および自宅周辺の危険箇所の確認や避難場所の確認を行うことで、緊急時に落ち着いて行動できる様、準備をすることが出来た。

【課題】

夜間定時制であるため、校外の避難場所への避難訓練を実施場合には注意が必要である。また、生徒数が少ないため、大勢で協力して取り組む形の訓練を実施することは難しい。

海南高等学校　大成校舎

実施日時	令和４年８月３１日（水）
参 加 者	生徒　１００名、教職員　１０名、　計　１１０名
実施内容	簡易担架作成訓練、消火器操作訓練、防災学習　等

ねらい

１．頻発する自然災害に対する知識や心構えについての学習を行う。

２．日常生活を通しての減災に対する実践的な態度を育成する。

３．災害後に必要とされる行動及び共同作業のスキルを習得させる。

４．これらを通して災害に対する「自助」「共助」「公助」について３年間を通して総合的な学習を行う。

主なプログラム

１．大地震により本校舎でけが人が出たり、避難所的な役割を果たさなくてはならなくなった場合を想定した訓練を実施する。消防署の協力を得て簡易担架作成訓練、消火器操作について受講する。

２．地震体験車による地震体験（雨天時･･･きいちゃんの災害避難ゲーム）

（３．アルファ米を用いた炊き出し訓練･･･新型コロナ感染者予防のため中止）

概要

９：００～１２：００　　各学年に分かれてプログラムを実施

参加者感想文

・身近な物で人を救ったり、自分の身を守ったりできるから、これを機にいろんな対策を調べてみようと思った。

・改めて日頃の備えをしっかりしなければならないと考えさせられた

・今回学んだ担架の作り方を忘れずに、いざ！というときに使えるようにしたい

・知識を身につけることは大事だと思った「身近な物で人を運べる」

・防災訓練を経て、事前にこういうことを体験しておくことが大切だと思った。

・本当に地震が起こったときに冷静に行動できるかわからなかったので、地震のときどう感じるのか知ることができてよかった

・消火器をあつかう機会はないので、今回の授業で消火器の使い方を知れてよかった

成果と課題

【成果】　今回の活動をとおして、地震をはじめとする災害の恐ろしさを感じ、自分の身は自分で守ること、周囲と協力し合うことなど、災害時に求められる「主体的に行動する」ことを学ぶきっかけとなったと思う。また、例年、消防署員の協力を得て、１年生全員が３月にＡＥＤの使用を含む心肺蘇生方法などを学んでいる。この場においても「今自分がすべきこと」を学び、考えられる生徒が一人でも多くなればと思う。

【課題】今後は、防災スクールを、地元自治会との連絡をとり、地域との連携をより深めた取り組みとしたい。

起震車体験

簡易担架作成訓練

消火器操作訓練

海南高等学校美里分校

実施日時	令和４年１２月１６日（金）　10：50 ～ 15：00
参加者	生徒 17 名、教職員８名、自衛隊５名、地域住民等６名（地元自主防災組織会長、副会長、区長、地元診療所看護師、地元駐在所警察官） 計 36 名
実施内容	講話、非常食試食、救護法演習（患者搬送、救急法、心肺蘇生法） 避難訓練

ねらい

１　いつ発生するかわからない災害に対する生徒の防災意識を高める。

２　学校周辺地域における今後発生する可能性が高い自然災害について理解を深め、対処する力を身につける。

３　防災の観点から地域の特性を学習し、今後の地域防災活動に役立てる。

主なプログラム

１　講話「避難所生活について」「防災について」

　　避難所生活及び地域の状況を踏まえた防災に関する講話

２　非常食試食

　　ヒートパックを用いた加熱調理による非常食の試食体験

３　救護法演習

　　患者搬送：簡易担架を用いた搬送等

　　救 急 法：包帯等を用いた止血方法等

　　心肺蘇生法：AED 及び心臓マッサージ

４　避難訓練

　　シナリオに基づいた状況付与による応急措置、搬送、避難訓練

概要

１　講話「避難所生活について」「防災について」

　　自衛隊による講話。全校生徒、教職員、地域住民等が参加。

　　学校周辺地域の状況を踏まえ、土砂災害を中心に災害の特性、備え、自衛隊の災害派遣の流れなどについてお話していただいた。本校は中山間地域にあるため、土砂災害により地域の孤立化が想定され、それに応じた物資の備蓄等が必要であることがわかった。地域住民からの質問で、高齢化が進む地域での災害時の課題などが浮き彫りになった。

２　非常食試食

講話の前に非常食を配食し、ヒートパックによる加熱調理を行った。講話の時間を使って非常食を蒸らし、講話後試食を行った。意外にメニューが豊富でおいしくいただくことができた。

３　救護法演習

自衛隊員の指導による救護法演習。全校生徒を３つのグループに分け、それぞれ 20 分のローテーションで、簡易担架を用いた患者搬送、包帯等を用いた止血方法、AED を含む心肺蘇生法を体験した。

４　避難訓練

授業中の地震発生を想定した避難訓練を行った。災害によるケガや心肺停止など、シナリオに基づく状況付与により、演習で学んだ教護法を用いながらグラウンドに避難した。脱出口や避難経路の確保、ケガ等の対応など、現場教職員の指示の重要性がわかった。

参加者感想文

- 【救急法】布で縛って止血できるというのは知っていたけど、木の枝を使ってきつく縛れるっていうのは初めて知りました。（生徒）
- 【患者搬送】ふとんと竹で作った担架にのってみたけど、意外としっかりしていて驚いた。（生徒）
- 【心肺蘇生】心臓マッサージを１分間やり続けたら、かなりきついと感じました。これを７～８間ずっとやり続けると考えるとこわいです。（生徒）
- 【非常食試食】非常食を食べてみて量が多くて少し味が濃いですが、災害時のカロリーや塩分をちゃんと採れるように考えられていることや、水分をなるべく少なく使っていることがわかりました。（生徒）
- 【講話】家族とハザードマップを見て、避難所を共有せなあかんなぁと再確認しました。非常食の用意とかちょっとずつしていかなと思い勉強になりました。（生徒）
- 【非常食試食】食料を配る、つくる、役割を決めるところから指導くださり、とても良かったです。ただ食べる体験に終わらず学習になっていました。（教員）
- 【講話】長谷毛原～国吉地区のハザードマップを見て道路の寸断が予測される場所の多いことに驚いた。かなり最小単位での孤立が起こりそう。高齢者が多いこの地域で、発災してからの対応は遅すぎる。行政が入っての住民の方との防災対策共有、訓練が早急に必要だと感じた。（地域・看護師）
- 【講話】わかりやすい講話だった。高校生よりも中学生くらいでの教育にいれてもいいと思った。（地域）

成果と課題

【成果】

- コロナ禍で実施できていなかった防災スクールを、３年ぶりに地域住民も参加する形で開催することができた。
- 自衛隊と連携することで、バラエティに富んだ内容の防災学習プログラムとなった。
- 演習を通して多くの救護法を学んだ。これらを避難訓練に取り入れることで実践的な学習となった。
- 講話では、地域の特性を踏まえた災害情報を加えることで、地域の防災対策に資する内容となった。

【課題】

- 地域住民の参加がプログラムの一部に留まった。高齢化が進む地域での連携の仕方や地域防災の在り方に課題を感じた。
- 多くの生徒が地域外から専用バスで通学する状況の中で、より実践的な防災学習や避難訓練を行うためには、目的や学習内容の設定に工夫が必要だと感じた。
- 救護法を学んだが、これらを実際の場面で生かすためには、一定の緊張感がある中で訓練を行わなければならないと感じた。
- 地域の状況を踏まえることで、より実践的な防災学習になることを期待したが、自衛隊など外部の機関では限界があると感じた。その地域の実情や課題に応じたより具体的な防災対策を追求するには、地域住民など当事者を中心において防災学習を企画する必要があると感じた。

防災スクールの開催は３年ぶりだったが、地域とも連携して実施することができたのは大きな成果だった。地域の状況を踏まえた災害情報を取り入れることで、地域の防災対策を考える契機にもなった。

地元出身の生徒が少なく、地域外から通学する生徒がほとんどである本校においては、この場所で生徒が被災することを想定するのは現実的ではないが、地域の特性を踏まえることで、防災面から見た地域理解に繋がると考えた。連携した自衛隊にはこうしたねらいを伝え対応していただいたが、こちらが期待したほどの内容までには至らなかった。

土砂災害で孤立化したときの避難場所の条件は何か、防災物資はどこに何を、どれくらい用意する必要があるのか、少子高齢化が進む地域において災害復旧はどのように進めるべきか、高齢者の避難生活における課題は何かなど、災害時のより現実的な課題を探ることで地域理解につなげたいと考えていたが、外部機関にそこまで期待するのは限界があると感じた。

地域における具体的な防災について考えるには、地域住民などの当事者が参加する必要がある。当事者を巻き込んだ防災学習を企画することで、地域防災を実践的に学び、防災に対する理解を深めることができるのではないかと感じた。

箕島高等学校

実施日時	令和４年７月１１日（月）、１１月２日（水）、１１月１０日（木）
参加者	生徒４０３名、教職員３３名、地域住民等１０名　計４４６名
実施内容	シェイクアウト訓練、避難経路の確認、救急救命処置、防災展示等

ねらい

１　地震から生命を守るための行動を身につけるとともに、慌てず落ち着いて行動する能力を身に付ける。

２　日頃から通学路等の危険箇所を知る。

３　工夫で日用品が防災グッズとして使用できる事を知る。

主なプログラム

１　シェイクアウト訓練

２　救急救命講習

３　防災・減災についての展示

概要

１　全校生徒対象に、予告なしで緊急地震速報を受信し、シェイクアウト訓練を実施した。

２　１年生を対象に、有田市消防の職員指導の下、救命救急講習を開催した。

３　１年生を対象とし実際に歩いて高台への避難経路を確認した。

４　保健委員会に所属する生徒により、文化祭期間中に防災展示を行った。

参加者感想文

- 緊急放送が流れたときは驚いたが冷静に行動することができた。
- 予告なしでも、落ち着いて行動することができた。
- 避難経路を歩いてみると遠く感じた。
- 万一のとき、電柱や電線などは大丈夫なのか不安になった。
- 心肺蘇生の大切さがよくわかった。
- 防災展示を行って、ハザードマップから、学校周辺が浸水地域だと再確認できた。
- 避難生活になったときに活用できる避難グッズの作り方を理解した。

成果と課題

【成果】

- 通学の際、万一の事態を想定し危険箇所を確認することができた。
- 予告なしでの緊急地震速報に対しても、シェイクアウト動作を確実にとることができた。
- 日頃から防災に対する意識を持つことで命を守る行動が出来ることを知った

【課題】

- 入学後できるだけ早期に、防災教育を実施する必要がある。（ハザードマップの確認・高台への避難経路の確認・シェイクアウト訓練）
- 避難所の設営や炊き出し、ロープワークなどの新たな取組も検討していきたい。
- 予告なしでのシェイクアウト訓練を学期に一度は実施し対応能力を高めたい。

有田中央高等学校

実施日時	令和５年　１月　２７日（金）
参加者	生徒６０名、教職員１０名　　計７０名
実施内容	出張！減災教育「きいちゃん災害避難ゲーム」の実施

ねらい

１　防災についての正しい知識と地域の防災のあり方について理解を深める。

２　自助、共助の意識を高め、起こりうる災害に備え、高校生ができる支援活動について考えさせる。

３　自分の意見をうまく伝え、話し合うことで、お互いの考えを知り、よりよい方法を模索していくことや、それぞれの役割を果たそうとする態度を育てる。

主なプログラム・概要

１　「きいちゃん災害避難ゲーム」津波から逃げ切ろう

２　「きいちゃん災害避難ゲーム」避難所運営ゲーム

３　防災ハンドブックの配布、ふりかえり

参加者感想文

・避難所運営ゲームでは楽しみながらしっかり考えることができた。高齢者やいろいろな人のことを考慮し、難しいこともあったけど、班で協力して意見を出し合うことができた。

・どうすればみんなが安心して避難所で過ごすことができるか、どの選択肢もあっているようで、選ぶのに時間がかかった。どこでどうすべきか先のことをあまり考えたことがなかったので、先のことを考えられた。自分の家からの安全な避難経路を確認しようと思った。

・津波から逃げ切れたとして、避難した場所でどうしたらいいのかわかった。防災についてあまり準備できていないので危険なことを知り、いろいろ準備しようと思えた。地震や土砂災害などいろいろな災害の対処方法をもっと知りたい。

・今まではなんとなく大丈夫だと思っていたけど、津波が来る前に何をしたらいいのか全く理解できていないことがわかり、家族と相談し逃げる準備をしておいた方が良いと思った。

・避難所での運営の難しさがわかった。避難所の定員や道が通れなくて食料が来ない場合などゲームにはなかった問題も気になってきた。班で自分の意見をしっかり言うことができて、防災についてしっかり学習できた。

・応急手当や火災などの事故についても、もっとくわしく知りたい。

・最も安全に避難する方法を確認したいと思った。よく考えて判断することが大切だということがわかりました。

・班で協力してお互いの意見を出し合うことができて、ゲームの答えでくわしい説明が聞けてどうすればよいか知ることができた。

・話し合いで様々な意見が出て、まとめるのはむずかしかった。自分の家の近くの避難所を調べておこうと思った。

・災害時にはたくさんの人からの支えがあることを知りました。初めて聞いた内容もあって、事前準備の大切さやすぐに判断することなど、理解することができました。災害の時に作る簡易トイレやパーテーションなどの作り方を知っておくと役に立てるかなと思いました。

成果と課題

【成果】

ゲームを通して、いろいろな場面をイメージし、どんなことが大切かを考えることができた。また、事前準備の大切さについても理解を深めることができた。

避難所の運営では自分たちが運営者の一員としても活躍していくことも想定し、よりよい方法を仲間と模索する姿が見られた。今回のグループ分けは、クラスの枠を解体して行った。普段あまり話をしない者同士が同じグループになっており、始めは話し合いもぎこちなく、スムーズに進行できていないグループもあったが、ゲームの目的がはっきりしているため、ひとりひとりが自分の役割をもち、コミュニケーションを取ろうとする雰囲気になってきた。

【課題】

事前の学習をする時間を持つことができなかった。また、防災ハンドブックは各自、家庭で役立ててもらうように配布したが、十分家族と話し合いを持つことができたか事後指導が必要である。

有田中央高等学校清水分校

実施日時	① 令和４年　８月２５日（木）２限～４限 ② 令和４年１１月　２日（水）２限
参加者	① 生徒２名、教職員８名、保護者２名　計１２名 ② 生徒２名、教職員８名　計１０名
実施内容	① 防災スクール「出張！減災教室」 ② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

ねらい

① 南海トラフの地震による津波からの避難、地震の激しい揺れに備えるため、地震や津波についての基礎知識、家具固定の重要性、避難所運営等について「出張！減災教室」で学ぶ。生徒、保護者、教職員が協力してボードゲームに取り組むことで、災害時の避難、避難所運営について理解を深める。

② 地震発生時にそれぞれの場面に応じた身の安全を確保する行動をとるなど、適切な対応行動を身に着けるとともに、日頃から地震に対する防災意識を高める。

また、土砂災害について、清水周辺は山地であり、身近に起こりえる災害であるため、土砂災害について正しい知識、備えを身につける。

主なプログラム

① 和歌山県の「出張！減災教室」を実施

Ｌ型金具等を用いた家具固定講座

きいちゃんの災害避難ゲーム「津波から逃げ切ろう！」「みんなで協力して避難所運営しよう！」

② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

シェイクアウト訓練、避難誘導、救護体制の訓練、「世界津波の日」「稲むらの火」に関する講話

わかやま土砂災害マップの確認、避難所マップの確認、避難カード記入

概要

① 和歌山県総務部危機管理局危機管理・消防課「出張！減災教室」を実施

生徒、保護者、教職員が協力して災害避難ゲームに取り組む

・Ｌ型金具等を用いた家具固定講座（約１時間）

・きいちゃんの災害避難ゲーム（約１時間 30 分）

ゲーム 1．津波から逃げ切ろう！

ゲーム 2．みんなで協力して避難所運営しよう！

・まとめ、感想

② 「世界津波の日」地震避難訓練、土砂災害について

地震発生時の身を守る行動、避難経路の確認を行い、緊急地震速報試験放送により実際にグランドに避難。その後、講話により「世界津波の日」「稲むらの火」の由来についての学習をした。また、わかやま土砂災害マップで清水分校周辺の状況を確認、清水分校体育館が避難所となっていることを確認し、どのような行動を取るべきかを学習した。

参加者感想文

・災害のことや避難方法がわかり、防災意識が高まりました。

・災害に備えた準備が大切だとわかり、自分の部屋にある家具の位置を確認したいと思います。

・去年は避難訓練の数日後、本当に地震が来たので油断禁物だと思いました。

成果と課題

【成果】防災スクールでは、前半でＬ型金具等を用いた家具固定等を学び、後半の避難ゲーム「津波から逃げ切ろう！」では、事前準備の大切さを理解することができた。避難ゲーム「みんなで協力して避難所運営しよう！」では各自が役割を果たすことの大切さと避難所運営で配慮すべきこと等を理解することができた。体育館が避難所になっていることもあり、率先して避難所運営に携わろうとする姿勢が養われた。地震・避難訓練では、昨年の避難訓練の後、実際に地震が起こったこともあり、より一層主体的に取り組むことができた。学校がある清水地区は、山間部に位置し、土砂災害は、身近に起こりえる災害であり、清水分校体育館が避難所になっていることから、生徒たちは、自分のこととして考えることができたようだ。

【課題】山間部のため津波は想定外であるが、土砂崩れや路面崩壊、倒木による交通の遮断や、電柱や電線の損壊による停電の被害は十分予想される。過去には、大きな台風の影響で、有田川町の山間部で停電が長期間続き、分校の生徒の中には１０日以上停電状態だった者もいた。学校のある地域は比較的早く復旧したが、電話・インターネットはもちろん携帯電話も不通になり、生徒や有田中央本校との連絡もできなかった。災害後の状況に対応できる体制づくりが必要である。令和５年１月２５日には、大雪のため清水地域の道路が全面通行止めとなった。今回の通行止めは、１日で復旧したが、冬季の雪に対する備えも必要である。また、防災スクールは保護者も参加したが、実際に体育館が避難所となった場合の感染対策も課題である。

耐久高等学校

実施日時	令和５年　３月　１４日（火）　８：３０～１１：３０
参加者	生徒１９２名（１年生）、教職員１３名　計２０５名
実施内容	湯浅広川消防組合の指導による各種防災実技訓練

ねらい

１．高校生の防災意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる人材の育成を目指す。
２．関係機関と連携し、防災・減災に関するより専門的な知識を習得する。

主なプログラム

・開講式
・実技訓練
　１．ロープワーク
　２．起震車による体験
　３．救助袋による降下訓練
　４．AED心肺蘇生法
　５．タンカでの搬送
・閉講式
・HR教室にて感想文

概要

体操服に更衣の上ハンドボールコートに集合して開講式を行う。学校長挨拶・湯浅広川消防組合よりの講話のあと、上記5つのプログラムを湯浅広川消防組合指導の下、クラス単位で各種目30分間のローテーションで実施する。実技訓練終了後、閉講式にて湯浅広川消防組合の講評を受け、HR教室にて感想文を書く。

開講式

起震車による体験

ロープワーク

救助袋による降下

AED心肺蘇生法

タンカでの搬送

参加者感想文

〇普段、防災に対していろいろ考える機会はあったけれど、実際に体験することはなかなかないのでとてもよい経験になりました。心臓マッサージとAED体験は、小学生の頃にしたことがあったけれど、忘れてしまっている所も多くあって、高校生で体験し直せたのはすごく大きな経験になりました。人を運んだり担架を作ったりする体験は初めてやりました。大人の人を運ばなければならないとなった時に、より軽く、よりスムーズに運べる方法を知れて高校生としての役割を担えるのではないかと思っています。いろいろな体験をして、改めて若い私たち高校生がするべきことはたくさん存在し、それを知識として身につけ次の世代へ教えていくことが大切なんだと感じました。今日教わったことを忘れず、実際に災害が発生したときに冷静な対応ができるように、日々心がけていきたいなと思います。

〇この防災訓練で体験するのが初めてのものがありました。まず最初に体験した校舎３階から下まで続く袋の中に入って避難する体験では、どうやってけがをせずに降りられるのか不思議だったけれど、中でらせん状に回りながら降りられる仕組みがあって驚きました。でももし本当にそれを使って逃げるとき、スムーズにセットできるのか気になりました。AEDの使い方も覚えられたので使えると思います。けがをした人がいたときの運び方も学ぶことができました。持ち上げ方や毛布を使って運んだり、担架を作ったりなど、身近なものでできることも多いと分かりました。本当に起きたときは落ち着いていきたいと思いました。縄を使って腕に結びつけるやり方も初めてでとても勉強になりました。結ぶのもスピードが大切だと知りました。何事もスムーズに安全に行うために普段からの訓練が大切であると感じました。

○ロープの結び方や人の運び方は中学生の時に体験したことがあったけれど、地震体験や高い所から降りるといった訓練など初体験のものが多かった。AEDによる救命は保健の授業で言葉や知識として習っていたけれど、実技で詳しく実践する機会があるというのは、実際にその事態に直面したときに動くことができるということに繋がるのではと思った。実際その場に直面するとどうしても恐怖から動けなかったりするので自分の目で見て前もって知っておくだけでも全然違ってくると思った。人を運ぶ訓練の時、救急隊員の人が、自分よりも遙かに体の大きい人を抱えているのを見て、単純にすごいと思ったと同時にしっかりと知識や技術を身につけることで、こんなことが出来るようになるのかと驚かされた。救急隊員の仕事は偉大でかっこいい仕事だと思った。私も災害や事故などの場面にあった時は今日学んだことを活かして人の役に立てるようにしたい。

成果と課題

目指す生徒像として、

①災害に対する危機意識を持ち、防災・減災に主体的に取り組む。

②災害発生時に自分の命を守るとともに、直後の救助活動に取り組む。

③災害後の活動に積極的に取り組む。

以上の３つを柱にして取り組んでいる。計画的に防災教育が行われ、生徒たちに防災・減災を自分事としてとらえさせ、高校生として何が出来るかを考えるようになってきたことが成果としてあげられる。今後、どのように地域との連携を図っていけるかを検討し、行動に移せる体制づくりが課題である。

耐久高等学校定時制

実施日時	令和4年１１月４日（金）
参加者	生徒９名、教職員９名　計１８名
実施内容	避難訓練、応急手当普及講習会（救命入門コース）

ねらい

１　避難訓練を通じて、地震・津波に対する防災意識を高める。

２　救命率向上のため、救急車到着までの人命救助の方法として、心肺蘇生法、 AEDの活用法を習得する。

主なプログラム

１　湯浅広川消防組合消防本部　地域防災センターまでの避難訓練

２　応急手当普及講習会（救命入門コース）受講

概要

１　本校の避難経路を確認しながら、交通に十分注意の上、高台にある地域防災センターまで避難訓練を実施した。

２　地域防災センターの方による応急手当普及講習会（救命入門コース）を受講、グループに分かれて説明を聞きながら心肺蘇生法、AEDの活用法を実際に体験して学んだ。

参加者感想文

・避難訓練に参加することで避難場所までの距離や時間が実感できた。

・早く避難場所まで着けて良かった。

・心肺蘇生法やAEDの使い方は知っておかないといざという時に間に合わない。この講習は大変勉強になった。

成果と課題

【成果】　避難経路を実際に通ってみてかかる時間を確認することができたのが良かった。今回、命を守るために、そしていち早く避難場所まで到達できるように、迅速に行動できた。また、心肺蘇生法を学び、AEDの使い方を訓練することは、いざという時に役に立つ貴重な経験となり、勉強になった。参加者全員に救命入門コース参加証が発行されたことも大きな励みになった。

【課題】　今回は校舎が損壊してしまった場合を想定して地域防災センターまで避難した。しかし、実際に災害が起こった場合には想定外の様々な事態が予想される。今後の避難訓練としては、例えば校舎が損壊していない場合の屋上への避難、地震に伴う火事が起こった場合のグラウンドへの避難など色々なケースを考えて、それらに素早く対応できるように実施していきたい。

日高高等学校・附属中学校

実施日時	① 令和４年　５月　２日（月） ② 令和４年１０月２７日（木）２８日（金） ③ 令和４年１１月　２日（水）
参加者	① ８４０名（中高生徒７９０名　職員５０名） ② ８４０名（中高生徒７９０名　職員５０名） ③ ８４０名（中高生徒７９０名　職員５０名）
実施内容	① 避難訓練　② 防災講話・防災スクール　③ シェイクアウト訓練

① 避難訓練

ねらい

大地震や津波の発生時、迅速かつ安全に対応できる行動力の育成を図るとともに、校内の避難経路を確認する。

主なプログラム

１ 緊急地震速報からグラウンドへの避難
２ グラウンドから校舎への垂直避難
３ HR 教室で感想文記述
４ 避難完了時刻報告と、学校長の講評

概要

１ 生徒には事前連絡せず、緊急地震速報を流し、机の下に避難させる。その後、授業者はライフジャケットで頭部を保護させて避難経路を誘導する。（避難時間計測）
２ 点呼確認後、津波の発生を想定し、担任引率のもと、校舎の３、４階へ垂直避難を行う。（避難時間計測）
３ HR 教室で成果と課題について記述する。
４ 学年別の避難完了時間の報告と、学校長から講評を行う。

参加者感想文

- 日常である授業中に突然、緊急地震速報が鳴り、事前に聞かされてない中での実施は緊張感があった。
- ３４分で津波が到達することは知っていた。６分という避難時間は遅くないと思うが、省けるところがなかったか、自分の行動を振り返ってみようと思う。
- 一昨年の１２月３日に、御坊市周辺で大地震があり、びっくりして頭が真っ白になったのを覚えています。改めて、この避難訓練が本当に必要だと思いました。
- ライフジャケットを着ずに、頭を守りながら避難したため移動時間が早かった。

成果と課題

【成果】

- 津波よりも先に地震が起こるため、建物が倒壊すると想定した。そのため、ライフジャケットを着ながらではなく、頭部（脳）を守ることを優先した。
- 緊張感を持たせるため、生徒には事前に連絡せず避難訓練を実施した。綿密な打ち合わせのもと、充実した訓練ができた。

【課題】

・全校生徒が、校舎からグラウンドへ避難するに要した時間は５分。グラウンドから校舎への避難時間は、高校生が６分、中学生は３分、全校生徒で１０分であった。避難経路を熟知することが、避難時間の短縮と、より安全の確保につながる。

② 防災講話・防災スクール

ねらい

災害は自らの居住地域にも起こるとしてとらえ、命の尊さを理解し、自助・共助・公助に関する知識理解と、実践力を高める。

主なプログラム

１ 東日本大震災で被災された、雁部那由多さんの講演

２ 自衛隊和歌山地方協力本部による防災スクール

３ 地震体験車ごりょう君による地震体験
きいちゃんの災害避難ゲーム（中１のみ）

概要

１ 命を守るためには、居住地域の地形を熟知し、最優先で避難経路を確保すること。災害は起こるととらえ、生徒自身が災害を経験した身として講演に参加する。

２ 心肺蘇生法は１分間に 100 回のリズムで行う。着用している衣類と、がれきの木材や物干し竿を利用した簡易担架作成。文房具を利用した止血法など、漠然と手法を学ぶのではなく、回数や時間など、理論的に効果を理解して活動する。

３ 今後、国内で発生するであろう８種類の地震を再現できる、地震体験車（ごりょう君）で、震度１～７を段階的に体験する。（きいちゃんの災害ゲーム）では、避難場所に到達するまでの課題発見と、避難所運営を体験し、状況判断力を養う。

参加者感想文

- 報道やメディアの写真は上空から撮ったもので、被災現場を地上の目線で学ぶ必要があった。講演はリアルな被災経験に基づいたもので、聞いていて今までにない感情になった。明日、自分も被災するかもという覚悟を持ち、自他の命を守れる準備と行動をします。
- １ ㎜でも高く、１秒でも早く確実に避難すること。一瞬の判断が生死を分けるということも考えておかなければならない。
- 被災地は、震災を忘れることで未災地となる。辛い経験を繰り返さないために、語り継ぐことが、１つの尊い命を救う。
- 講師先生が、僕のとなりに当時いた立場で話を聞いてください。と言い、この気持ちで聞いたら津波の怖さと理解が増し、心・知識・行動の準備をしていれば自他の命を救うことができると実感した。
- 人間に何らかの被害が生じるから、災害となるが、それは間違いだ。人間が、災害の起こる自然界にお邪魔して暮らしている。この言葉を聞いて、目が覚めると同時に、自分の危機感の無さを痛感した。
- 街の倒壊や財産を無くしたことより、人の顔から笑顔が消えたことが最も悲しかった。何の人助けもできなかった自分を悔やんでいる。これを聞いて、早速防災の準備をしようと思った。
- 担架がその場に無くても、布と服、木があれば人を運ぶことができる。
- 心臓マッサージを体験し、胸が５センチ沈む程度の強さや、１分間に１００回程度と具体的に理解することができた。

成果と課題

【成果】

命を守るための知識理解と、意識改革を趣旨とし、最も重要なのは、災害が起こって当然という心構えと、そのための準備が必要であることを学んだ。

③ シェイクアウト訓練

ねらい

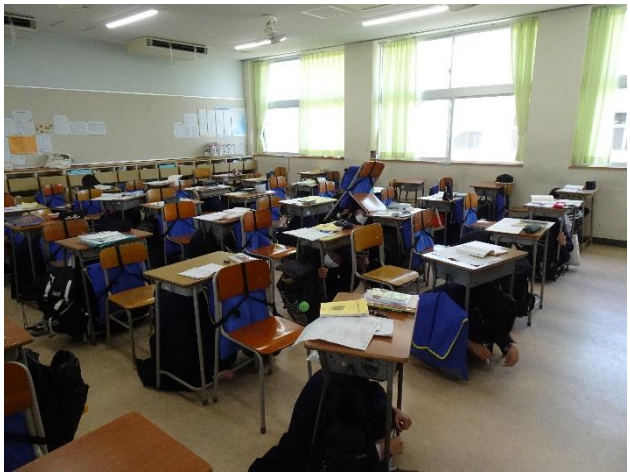
緊急地震速報が発表された時、それぞれの場面に応じた適切な行動を身につける。

主なプログラム

授業実施場所（教室・グラウンド・体育館等）でのシェイクアウト訓練

概要

・午前１０時に、放送室から緊急地震速報を流す。職員、生徒とも（頭部を低く保護して動かない）をテーマにして、机の下など安全な場所に避難する。



日高高等学校　定時制課程

実施日時	令和４年７月１９日（火）、９月５日（月）、１１月１６日（水）
参加者	生徒１９名、教職員９名、地域住民等０名　計２８名
実施内容	被災者救助(救急救命)訓練、火災避難訓練、地震体験車「ごりょう君」、津波を想定した避難訓練と避難経路確認、ライフジャケット脱着訓練

ねらい

１、災害についての知識を身につける
２、災害から自らの命を守るとともに、被災者を救助する行動力を養成する
３、災害から生き抜く力を身につける

主なプログラム

１、火災、津波に対して各状況を設定し、避難訓練・避難場所の確認を行う。また被災者の救助のための救急救命訓練を行う。
２、起震車による地震体験訓練
地震体験車「ごりょう君」に乗って、３方向の揺れと震度７までを段階的に体験する。
３、ライフジャケット着脱訓練

概要

１、緊急時に人命救助にあたるための心構え、南海・東南海地震への備えと、ライフジャケットの正しい着用方法の体験から被災時にとるべき行動を確認した。
２、在校時に災害が起こった時の避難場所までの経路を確認するとともに、在宅時の避難場所や家族との連絡方法を確認した。

参加者感想文

- 救急救命は速さが最も大切で、あわせて、的確な判断も必要だと感じた。
- 避難経路を調べておこうと思った。
- 災害時は想定にとらわれない臨機応変な対応をするべきだと思った。
- どこで災害に遭うか分からないので、家族との連絡方法を確認します。

成果と課題

【成果】

- 例年、心肺蘇生法や起震車による地震体験をしているが、生徒は毎年少しずつ入れ替わるため、地震の恐ろしさやその後にやって来る津波に対する認識を高めるためにも、継続的に行う必要性を実感した。
- 生徒は、災害発生時に自分の身を守ること、被災者を助けること、ボランティアとして人々をサポートすること等について、一つ一つ自分たちのとるべき行動や、担うべき役割を確認できたようである。また、家族との連絡方法や落ち合う場所を決めておくことの大切さも認識したようである。
- 生徒は、巨大地震に伴う津波発生時に、ライフジャケットを着用することの大切さを理解し、実際に着用してみることで緊急時の安全対策を実感できたようである。
- 今年度はコロナ対策を万全にし、防災訓練をほぼ計画通りに実施できたことで、生徒への意識付けになった。

【課題】

- 今年度もコロナ禍の影響で、アルファ米の炊き出し訓練は実施出来なかった。
- 生徒は、訓練でも真面目に取り組んいるが、目的の理解が不十分で、真剣みに欠ける部分があることも否めない。いかに自分のこととしてとらえ、より高い意識で訓練に臨ませるかが今後の課題である。

日高高等学校中津分校

実施日時	令和４年１２月２２日（木）
参加者	生徒４３名、教職員８名　　計５１名
実施内容	自衛隊和歌山地方協力本部による防災スクール

ねらい

１自然災害に備えるだけではなく、日常生活における緊急対応を含め、防災意識を高め、地域防災の担い手として行動し、社会貢献できる高校生の育成を目指す。

主なプログラム

１　防災講話　　２　止血法
３　骨折時の処置　　４　担架作りと搬送
５　土嚢積み　　６　ロープワーク
６　感想及び振り返り

概要

１　分校体育館で全校生徒および教職員を対象に自衛隊員から講話および研修を受ける。

参加者感想文

・救急処置などが意外と簡単で手短にできることに驚いた。もし、必要な場面がきたら使いたいと思った。教えてもらったことをこれから生かしたい。
・すごく良いことが聞けたし、いざそうなった時にはできるようにしたい。
・もし災害が起こったときは、今日習ったことをやりたいと思う。
・興味をそそることばかりだったので、勉強になった。すごく楽しかった。
・これからの人生につながることを教えてもらったから、これからにつなげていきたい。
・自衛隊の色々なことを知れて良かった。とてもこれから先に役立つことをいろいろ学べた。万が一の時は今日習った事を生かしたい。
・全て印象に残った。

成果と課題

【成果】

昨年度は、日高川防災センターときいちゃん避難所設営ゲームを行い、今年度は自衛隊協力のもと計画的に防災意識を高め、防災に対する知識・技術を習得することができた。本校の生徒の実情にあった体験型防災教育を行うことで成果があった。災害時には、まず自分の身の安全を確保した上で、地域と連携し活動ができるようになったと思われる。

【課題】

生徒の感想を見てみると、多くの生徒が今回の防災スクールの意義を理解し、講話・研修を受けることができ、好評であった。

ただ、運営上１１月は学校行事が多く、来年度は行事を見直したい。当初、中津中学校と連携して開催する予定であったが、日程調整がうまくいかなった。来年度は、地域を含めた防災スクールにしたい。

紀央館高等学校

実施日時	①令和４年　４月 27 日（水） ②令和４年１１月　９日（水）
参加者	①生徒１５７名、教職員１４名、地域住民等０名　計１７１名 ②生徒４６９名、教職員５０名、地域住民等０名　計５１９名
実施内容	①地震・津波　避難訓練 ②シェイクアウト訓練　　「津波防災の日」等についての学習 　避難場所の確認（避難カードの確認を含む。）

ねらい

１、地震による津波や火災に対する知識を確認し適切な行動がとれるようにする。

２、地震による津波や火災に対して適切な避難行動がとれるようにする。

主なプログラム

①津波避難訓練

・参加者　１年生１５７人　教職員１４名

・開催日　令和４年４月２７日（水）

・取組　　大地震が発生し、その後、津波が発生したと想定し、避難行動の訓練を行う。

②「津波防災の日」等についての学習

・参加者　全学年４６９人　教職員５０名

・開催日　令和４年１１月９日（水）

・取組　　シェイクアウト訓練　　「津波防災の日」等についての学習
　　避難場所の確認

概要

①津波避難訓練

大地震が発生し、大津波警報の発令を受け、本校北の高台（御坊市湯川町富安方面）に避難する場面を想定して訓練を行った。クラス単位で担任の指導のもと、実際に歩いて想定された避難経路を確認した。避難場所や避難経路を確認し、円滑に避難できるようにした。また、八幡山や亀山等、標高４０m 辺りを中心に、学校周辺の地理を認識させた。

②「津波防災の日」等についての学習

本校文化祭のため、県内の一斉訓練には参加できず、1週間後に単独で行った。大地震が発生したと想定して、身の安全を守るため、シェイクアウト訓練を行った。また、揺れが収まってから速やかに避難できるように窓や戸を開けておくことを心掛けた。その後、全校放送により津波の恐れがある地震、津波の恐れのない地震、火災が発生した場合について、避難場所や避難経路を確認した。放送終了後、各クラス単位で担任、副担任の指導のもと、気象庁制作の映像教材を使用して津波・地震に関する学習を行った。最後に、避難カードを作成し、家庭でも避難場所の確認をしておくよう指導した。

参加者感想文

- 実際に歩くことで避難の手順がよく分かった。避難するとき階段にたくさんの人がいて驚いた。
- クラスごとに避難するのは、思ったより時間がかかると感じた。地震が起これば焦ってしまうだろうが、落ち着いて行動しようと思った。
- どのような災害がおこるかで、避難の仕方が違うことがわかった。なぜ違うのかも理解することができた。
- 高校生の私たちがリーダーとなって、率先して行動したいと思った。家族と避難場所について話し合い、災害発生時に備えて準備をしておこうと思った。

成果と課題

①津波避難訓練

新入生に学校周辺の地理状況を認識させ、避難場所の確認をすることができた。訓練は学校周辺の歩道がある安全な経路を歩き、交通量が多くなる地点からは確認だけを行った。

入学してすぐに避難経路を確認することや、実際に歩くことで経路や時間を体感することが大切であると考える。次年度以降も継続していきたい。

②「津波防災の日」等についての学習

地震発生時、シェイクアウト行動や、避難のため戸を開ける等、迅速な対応ができた。防災学習がすすみ、生徒たちの知識や理解度も十分高まっているが、災害への再認識をする機会をつくることは、たいへん有意義だと考える。校内行事との調整をして、次年度以降は「津波の防災の日」に合わせての県下一斉訓練に参加したい。

南部高等学校 龍神分校

実施日時	令和４年１１月２日（水）
参加者	生徒３１名、教職員１１名、地域住民等０名　計４２名
実施内容	地震による災害避難訓練、非常食調理・飲食体験　等

ねらい

地震による災害を想定した避難訓練と、非常食を体験することで、防災への意識を高め、災害時への心構えを育む。

主なプログラム

１　地震避難訓練
２　非常食体験

概要

１　緊急地震速報（訓練）による避難訓練を行う。訓練放送を受けて、安全確保からグランドに避難する一連の行動を確認する。
２　「防災ハンドブック」を使い、緊急時の避難行動時における注意点や、避難カードや和歌山県防災ナビの使い方わお学習すると共に、非常食についても学習する。
３　非常食の「アルファー米」を使い、調理から配膳・試食を行うことで、非常時に求められる経験と協調性を養う。

成果と課題

【成果】

非常食を実際に食することで、より身近に防災を感じると共に、被災者にも寄り添うことが出来るようになったと思われる。

【課題】

防災ハンドブックを用いたが、さらに学習を深めるために防災啓発の DVD を視聴することを検討したい。

田辺高等学校・田辺中学校

実施日時	令和４年 11 月４日（金）
参加者	生徒 359 名、教職員 17 名、計 376 名　　＊高１中１参加者
実施内容	・「重ねるハザードマップ」を利用したリスク管理(避難など) ・電車を使った避難訓練(JR 西日本協力)　・マイトイレづくり ・防災講演会(和歌山気象台長による講演)　・避難訓練

ねらい

１　紀伊半島は、地震・津波だけでなく、台風などによる土砂災害のリスクも大きい地域であることを認識し、自分の住んでいる地域でどのようなリスクがあるかを確認し、適切な避難行動などをとることができる。

２　中学生や高校生が避難時や避難所で出来る役割を理解し、率先した行動をとる。

主なプログラム

・１限：「土砂災害」「避難所のトイレ」

・２限：全校避難訓練

・３限：防災講演会

☆並行して JR 車両による避難訓練

概要

◆1 限：「土砂災害」「避難所のトイレ」

① 導入で学校作成の土砂災害の映像(5 分)を放映。一人一台 PC などを用い、国土交通省の「重ねる防災マップ」を利用し土砂災害のリスクを知った上で、気象庁の e-ラーニング教材「大雨の時どう逃げる」で避難タイミングの目安と避難内容の確認を行う。

② 内閣府の「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」を用い、避難所のトイレ事情と健康リスク、簡易トイレの重要性を確認したうえで、和歌山大学防災教育センター作成のマニュアルによる簡易トイレづくり(約 800 個)を行う。

◆2 限：全校避難訓練

・地震発生時の避難訓練と大津波警報発令時の高所避難訓練を行う。

◆3 限：防災講演会　和歌山気象台 山本善弘台長

「地震や津波から命を守るために」～巨大地震に備える～

◆並行して JR 西日本との協働で、実際の運行車両を用いた避難訓練を実施。

・発災時にワンマン電車では乗務員だけでは対応できないので、高校生も率先者として避難はしごの設置や乗客の誘導に協力することの意義を学ぶ。

参加者感想文

・高台に住んでいるので、土砂災害と無縁と思っていたが、高台の端や谷を埋め立てて出来た場所は地すべりリスクがあることが確認できた。

・避難所のトイレ問題はその時にならないと気づきにくいので、簡易トイレを作る意味があると思う。

成果と課題

【成果】地震や津波だけでなく、地域の土砂災害スクも認識するきっかけとなった。

【課題】「重ねるハザードマップ」を用いた実習は生徒により取り組みや理解度に差が見られた。

田辺工業高等学校

実施日時	令和４年１１月２２日（火）
参加者	生徒１２４名、教職員１２名、地域住民等０名　計１３６名
実施内容	防災講演　救命救急、救命器具教育　ロープワーク

ねらい

１　災害発生時に生徒達が自らの判断で迅速に避難し、対応できる力を身につけさせる。
また、共助の意識を高め地域に貢献できる防災リーダーの育成を目指す。

主なプログラム

１　防災講演
自衛隊和歌山地方協力本部本部長による講演では災害現場の活動状況の説明、救命救急や復旧活動の経験談、災害時の対処方法の紹介から救命救急の大切さを学んだ。

２　ワークショップ
１）応急処置
２）匍匐前進
３）非常用スリッパ作り

Fig.1 防災講演の様子

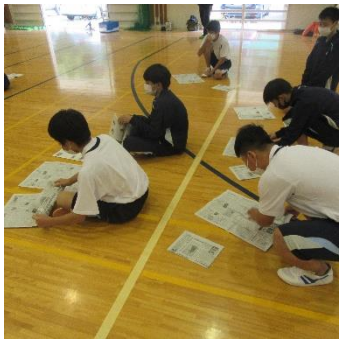


Fig.2　非常用スリッパ作りの様子

※今年度も昨年に引き続き、新型コロナ感染拡大防止のため、炊き出し訓練は中止した。

概要

１　打ち合わせ　　自衛隊（和歌山地方協力本部田辺地域事務所）と事前打ち合わせ
２　事 前 説 明　　生徒に向けてホームルームにて事前に内容説明と班分け
３　対　象　者　　１学年生徒および１学年職員対象に高校生防災スクールを実施

参加者感想文

・自衛隊の方から大震災の話を聞いて、訓練を活かした行動の大切さを改めて思った。
・防災スクールや避難訓練での体験や知識を活かしたいと思った。
・地震や津波に備えて準備しておく事が重要だと感じた。
・自衛隊の皆さんの活動の大変さがわかった。

成果と課題

【成果】

新型コロナ感染症拡大の兆しが見える時期ではあったが、感染防止対策を講じて今年も開催することが出来た。自然災害については感染症の有無に関わらず、発生することを考慮すれば、昨年同様にコロナ禍における訓練としても有意義な内容の取り組みであった。生徒の取り組む様子については毎年感じることではあるが、地震や津波に対する意識は高いと感じる。これは地域柄、津波被害に直面している事が幼少期から教育や地域や家庭からの教えによって身に付いているものと思われる。このようなベースとなる意識のもとで行う防災教育は必ず有意義なものであり、有事の際には行動や判断に活かされる事が期待できる。今年は匍匐前進やスリッパ作りなど自衛隊の皆さんも学生に教える工夫をしていただいていることが覗えた。生徒の皆さんは地域住民の一人として防災への理解を深めることが出来た講習となった。

【課題】

昨年の課題であったテーマを増やすことは自衛隊の皆さんの協力により実現された。今後も続くであろうコロナやインフルエンザなどのウイルス感染渦での対応も学ぶ必要があると感じる。

今後はさらに充実した内容を取り入れ、実際の現場で活躍できる人材の育成に繋げる事を目指したい。

神島高等学校

実施日時	令和４年１１月２日（水）
参加者	生徒７２０名、教職員４０名　計７６０名
実施内容	避難訓練

ねらい

１　近い将来発生が予想される大地震や大津波から、安全に逃げ切るため、生徒各自による速やかな避難行動への意識を高める。

主なプログラム

１　「緊急地震速報」訓練用放送使用と口頭での校内放送で避難する。（想定は最大津波高12m　5m到達時間16分　10m到達時間は24分）。

２　校内放送で「大津波警報発令」・「避難指示」

・担任は、生徒に安全かつ速やに避難場所へ避難を促す。

概要

１　「緊急地震速報」発表

・訓練用放送使用＋口頭での校内放送　［教頭］＊９０

【想定】最大津波高12m　5m到達時間16分　10m到達時間24分

・担任は、生徒に安全な姿勢をとるよう指示。　生徒に安全かつ速やかな避難を促す。

２　教室の生徒数を把握しておき、全員が教室から出るのを確認後、生徒と共に避難する。

・担任は、生徒と共に避難しながら、押し合う等の危険な状況が生じた場合は、注意を促す。階段、出口、人波が合流する場所は特に注意する。

・正門、通用門から出て、各自速やかに田辺高校へ向かってかけ足で避難開始。道路を横切って（2カ所：正門前・通用門前と田辺高校下の道）田辺高校下グラウンドを目的地とする。

・経路はどこを通ってもよい。

・目的地（田辺高校下グラウンド）に全員が集まったクラスは点呼担任に報告、担任は、教頭に報告する。

・点呼が終わったクラスは、田辺高校からさらに避難が必要になった場合の経路を、確認する。（下グラウンドから正門へ上がり目視で確認する。）

※確認が終わったら順に帰校する。帰校時は、走らず歩いて田辺高校下のファミリーマート横の道路を通り、そのまま直進して通用門から帰校する。（担任が誘導。）

・HR教室にてアンケートを記入し振り返る。

参加者感想文

・思った以上に混雑した。・自分の思うとおりに進めなかった

・混雑していたのでうまく走れない。

・訓練でも混雑したのに、実際に津波が来たときは田高までたどり着けるか心配。

・今日は神島だけだったが、津波の時は大勢が避難するから逃げるのが困難になる。

・坂道が多く避難しづらい。

・頑張ってスムーズにいけばオークワまで行ける。

・焦らなければ田高まで近い。

・距離はあまり遠くないので落ち着いて行動するのが大事だ。

・車が一番危険・混雑しているので別ルートも考えたが人波に流される。

・本番のイメージをつかみながら動けていた。
・本当に地震が起きたときはみんな走るから、全校生徒が走ったときにどうなるか確かめておく必要がある。
・避難訓練で経路を確認することは大事だ。
・危険を感じることができてよかった。
・訓練だからか、自分も含め、みんな危機感がなかった。
・避難経路の事前確認が大切だ。
・今まで知らない道が知れた。・何パターンもの避難の仕方がわかった。
・訓練だからこそ走って行くべきだ。
・田高までの距離でも周りの人がいなかったら道が分かっていなかった。自分の地区周辺もハザードマップ等で調べておきたい。
・みんなで話し合って逃げた方がいい。
・実際に地震が起きたとき、今日の経路を通れるのかが不安。
・もっと適したルートを見つけたい。
・田辺高校では低い。
・田高では不安なのでもっと高いところに避難したい。・田高は思ったより高かった。
・いつも自転車で通る道なのですごく長く感じた。
・いずれ起こる南海トラフ地震に備えて対策するのは大事だ。
・津波の時は冷静に行動しないと危険だ。・神島は海の近くなので早く避難したい。
・素早く行動するためにはどうすればいいか考える必要がある。
・もっと災害のことを知ったほうがいい。
・実際起こると怖くて動けないから、日頃からイメージして備えておきたい。
・自宅は津波の心配はないが、停電・断水・土砂崩れの対策はしないといけない。
・家に防災グッズを置こう。
・自分の命は自分で守ることも、人と協力することも両方大事だ。
・自分でさえ坂道は大変なのに年配の方々はもっと大変なのだと思った。手伝いできることがあれば行動できたらと思った。
・学校を移転してほしい。
・もしものことを考えて食料を準備したり家族ともっと話をして決めておこうと思った。

成果と課題

【成果】
・実際に自由に避難してみて、避難経路の確認ができた。
・何より生徒の意識が高くなり、課題が多いことに気づけた。
・自分だけでなく、避難困難者について考えることができるようになった。
・校舎内の移動については、今回は学年ごと(各階ごと）等、こちら側が避難経路への誘導を統制したことによって「スムーズに移動できた」と回答した割合が増えている。やはり学校内でのパターン練習も必要だと感じた。
・「混雑し危険を感じた」が去年より減少しているのでよかった。

【課題】
・今回は早歩きを推奨したため、時間については問うていないが、南海トラフの巨大地震が発生した場合の津波到達時間は、３mの第１波が１５分、１２mの第２波が２６分と想定されており、避難に時間がかかることを感じた生徒も多くいた。今後も訓練を重ねることで、「できるだけ早く」を意識づけしていくことが大事だ。

・災害時に自分だけでなく災害できない可能性がある人についても考えることができた。
・地域全体の避難訓練や避難所の設営等の訓練も必要。

①

②

③

④

熊野高等学校

実施日時	①令和４年１０月３０日（日）午前 ②令和４年１０月３０日（日）午後 ③令和５年　３月１４日（火）・１５（水）・１６（木）
参加者	
実施内容	①地震・火災避難訓練他（上富田町合同） ②防災講演 ③救急救命講習

	生徒	教職員	その他	合計
①	532 名（高１・２・３）	60 名	250 名	842 名
②	532 名（高１・２・３）	60 名	０名	592 名
③	186 名（高２）	20 名	０名	206 名

概要

① 熊野高校・上富田町合同防災訓練

上富田町役場・田辺消防署上富田分署・自衛隊・はまゆう支援学校・上富田中学校と連携して開催された合同防災訓練。各教室でのシェイクアウト訓練の後、グラウンドへの避難訓練をおこなう。消防隊による放水訓練の見学、体験訓練として消火器や防災資機材の取り扱い・煙体験・担架搬送法・ロープワープなどがおこなわれた。体育館では避難所開設訓練として、パーテーションの組み立てや展示などが行われた。本校生徒から、『災害時における要援護者の対応について』『ＡＥＤシート』についての発表が行われた。

②　防災講演

　午前の防災訓練に引き続き、午後は熊野高校独自で２つの防災講演がをおこなわれ

た。その１では、　『地域消防団の活動について』というテーマで上富田町消防団から、実際の活動や高校生にも将来的に参加してほしいというメッセージが送られた。

その２では『ＤＭＡＴからの提案！今、君たちにできること』というテーマで紀南病院災害救助チームＤＭＡＴから現役の看護師さんをお迎えし、災害時におけるトリアージという考え方を中心にクイズ形式で教えていただいた。高校生として、いざというときに地域貢献するために知識や技術を身につけることの大切さを改めて知る機会となった。

③　救急救命講習

　２年生を対象に心肺蘇生法およびＡＥＤの操作方法に関する実技講習を受けた。毎年、田辺消防署上富田分署の隊員の方々からきめ細やかな指導を受けられる貴重な機会となっている。２クラスずつ３日間にわたり講習が実施された。全員が実技をおこなうこともあり、和やかななかにも緊張感の感じられる有意義な講習であった。また本校サポーターズリーダー部が作成したＡＥＤシートについても使用方法が部員から説明があった。

参加者感想

①　熊野高校・上富田町合同防災訓練

　昨年も似たような訓練を行いましたが、今年は火が強かったり、煙が多かったりと、怖さが倍増したような訓練でした。煙の部屋で視界が悪い中、自分や他人が助かるにはどうすればいいんだろうとずっと考えていました。（高３女子）

②防災講演

・消防署と消防団の違いを初めて知りまし

た。農家の仕事をしながら、消防団の仕事もしている人がいることに驚きました。消防団の人数は年々減っていると聞き、私は将来消防団の一員として地域に貢献したいと思いました。（高１女子）

・「トリアージ」、この前倫理の授業で学びました。いくら人の命が平等であれ、災害時に被害に遭った大勢の人々を助けるのに限界があることはやっぱり悲しいと思いました。優先順位の判断などを詳しく学び、高校生の体力を活かしたボランティア活動の必要性を改めて感じました。（高３男子）

③救急救命講習

・中学生の時にもＡＥＤ講習に参加したことはありましたが、高校生でこの講習に参加し、人命に関わる緊急時に自分にどんな知識や技術が必要なのか改めて考える機会となりました。（高２男子）

成果と課題

今年度の上富田町との合同防災訓練は、地域住民に加えて、はまゆう支援学校生徒と上富田中学校３年生全員が参加し、大規模に行われた。地域と学校が一体となった訓練は、実際の災害時を想定する上で大変貴重な機会となった。昨年に続き、コロナ禍での大規模訓練ということで、事前に関係機関との打合せや校内の調整に時間を要した。

防災講演は、生徒があまり関わった経験のない災害現場に直接携わる方々からの言葉ということで、午後からの講演にもかかわらず、充実した時間となった。

今後、合同防災訓練は３年に１度となる見通しだが、生徒達が集中して取り組んでいけるように内容について新たな工夫を続けていく必要がある。

救急救命講習は、ほとんどの生徒が中学生の時に講習を受けている。高校生としてあらためて講習を受けることで、その知識や技術が定着し、地域防災の担い手としての自覚が生徒たちに広がる絶好の機会となった。今後も大切な講習として続けていきたい。

串本古座高等学校

実施日時	２０２２年　８月　５日（金）
参加者	生徒８６名、教職員１３名、　計９９名
実施内容	避難はしご組み立て、津波避難、要介助者避難介助対処法

ねらい

１、多様な防災の知識を身につけ、さまざまな状況の災害に対応できる力を養う。

２、鉄道乗車中の災害時に生徒自身が地域の率先避難者となれるよう防災意識を高める。

主なプログラム

１、避難はしごの使い方

２、津波避難、要介助者避難介助など対処法

概要

１、避難はしご組み立て

列車内に備え付けられた災害時の車外への避難用のはしごの使い方を学んだ。

２、津波避難

列車乗車中に地震とそれに伴う津波が発生したことを想定し、避難はしごを用いた列車外への降車、および付近の高台への避難についてビデオ学習。

３、要介助者避難介助訓練

介助者と、要介助者が一緒に避難を行う際の注意点を学んだ。

参加者感想文

・率先して声をかけることが大切。

・避難には相手への配慮が必要だと分かった。

・白い杖を持っている人がいれば役に立てたらいいと思う。

・体の不自由な方は怖い思いをしているのだと思った。

・率先してくれる人がいると迷わず行動できる。

成果と課題

【成果】

本校は沿岸部に位置しており、南海トラフ巨大地震等でも津波による浸水被害等が予想される地点でもあることから、地震津波に関して日頃から関心をもち防災教育を行っている。今年度は、JR 西日本の

協力で、津波災害を想定した列車からの避難について学習を行った。本校には多くの列車通学生が在籍しており、列車を利用する生徒が災害発生時に地域の率先避難者となれるよう避難はしごの利用訓練や要介助者への避難介助の対処法を学んだ。生徒からは「率先して声をかけることが大切」、「避難には相手への配慮が必要」との感想が寄せられた。

【課題】

今回は２年生のみの学習であった。今後はこの経験をどう全校に広げていくか、また、今回訓練を体験した生徒たちが、災害避難や率先避難者としての心得を周囲の人々や年下の世代等にどのように継承していくかが課題である。

新宮高等学校

実施日時	令和４年　１１月　１６日（５限～７限）
参加者	生徒１８８名、教職員１１名、　計１９９名
実施内容	搬送法　応急手当　土嚢積み　ロープワーク　防災ライフハック JR による講演及び実技

ねらい

県教育委員会主催の「県高校生防災スクール」事業の一環であり講義や訓練を通して高校生の防災意識を高め、地域防災のリーダーとして災害時に活動できるような生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

１　自衛隊による災害時を想定した防災訓練

２　JR による避難訓練講話

概要

１　・JR が防災講話を体育館で実施

・１学年生徒１８８名が各クラスに分かれて自衛隊による講習に参加

参加者感想文

・JR の方が舞台から避難はしごを設置してくれたので、どのようなものかを実際に見られてよかった。

・JR の講話が聞きやすかった。

・懐中電灯に袋をかけるだけで明るくなることなどが知れてよかった。

・ロープを結ぶのが難しかった。

・土嚢積みが大変だった。

成果と課題

【成果】　防災意識を高めることができ、一人一人が協力し合い、積極的に取り組むことができた。

【課題】　感染症対策をとりながら実施したため、様々なことが例年通りには行うことができなかった。例えば、消防の方からの指導や、自衛隊の方が考えて下さった炊き出しや人形を使っての応急救護の体験などである。

新宮高等学校定時制

実施日時	令和４年　９月　７日（水）、１１月　４日（金）、１２月２１日（水）
参加者	生徒２２名、教職員９名、　計３１名
実施内容	津波避難訓練、防災避難訓練、炊き出し・配膳訓練、

ねらい

１、防災に関する意識を高める

２、被災時に救援活動に参加する意識と技術を身につけさせる。

主なプログラム

訓練①　９月７日（水）

　　１８：００　火災警報発令緊急放送「これは訓練です。校舎第３棟より出火しました。現在まだ火災は大きくなっていません。生徒諸君は担任の先生の指示に従って、すみやかに
体育館前に避難してください。」
生徒は担任の誘導で体育館前に避難する

　同時に教頭より新宮消防署に通報訓練。

　　１８：３０　消火訓練　その場で消火器の使い方等を説明し、理解を深める。

　　１９：００　　火災からの避難についてのビデオ鑑賞

訓練②　１１月４日（金）

　１８：００　緊急地震速報訓練放送・机の下等に避難（シェイクダウン）

　１８：１０　教科担当の指示で避難開始

　　（停電を想定して廊下・ベランダの電灯は消しておく）

　　（避難の際、スマートフォンの電灯機能を利用するむね伝える

HR を消灯する　教科担当）

　３棟東側屋上に出て、整列、教科担当点呼、教頭先生に報告。

　１８：３０　多目的教室に集合、防災係より講話

訓練③　　１２月２１日（水）　ビデオによる「防災クイズ」と炊き出し訓練

　　１８：００　多目的教室に集合、担任点呼の後、生徒会役員を中心に、アルファ米の炊き出し・配膳訓練　最初に生徒会長が、アルファ米への湯の入れ方を説明して実演、その後全員で炊き出し訓練

　　１８：２０　「防災クイズ」「津波シミュレーション動画」「重ねるハザードマップ」

　　１８：５０　その場で感想文記入

概要

１、火災発生を想定した避難訓練・消火訓練、煙体験と防災学習（火災からの避難についてのビデオ鑑賞）

２、世界津波の日における、授業中の停電を想定した地震・津波避難訓練

３、「防災クイズ」「津波浸水シュミレーション」のビデオ鑑賞。「重ねるハザードマップ」の紹介。と炊き出し訓練

参加者感想文

防災クイズは、だいたいわかっているつもりだったが、全然わからなかった。仕事をしている時にも役に立つと思うので、聞いてよかった。

（二年女子）

事前の準備の大切さを学びました。防災の授業を受けるたびに、防災グッズの準備をしなければと思うのですが、いつも後回しにしてしまうのでこれからは準備していこうと思います。

（三年女子）

私の地区は津波は来ないと言われているようですが、気をつけようと思います。（四年女子）

学校で災害に遭ったら避難場所はわかっているけれど、家で災害に遭ったとき、避難場所を家族にも教えておこうと思った。（四年女子）

防災クイズで、スーパーマーケットで大地震に遭ったら、買い物かごを頭にかぶるということは初めて知った。　　（三年女子）

成果と課題

【成果】

・避難訓練は、おおむね迅速に行うことができた。

・防災クイズを実施して、防災グッズの準備の大切さを知ったという意見が感想文に多く見られた。

・津波から迅速に避難する意識を、ビデオ鑑賞によって高められたことが感想文からうかがえた。

【課題】

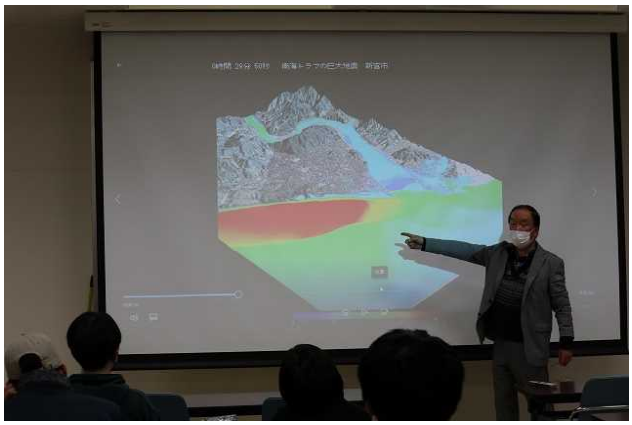
・夜間定時制であり、停電を想定した避難訓練は、今後も重ねて実施していく必要を感じる。

・今年はコロナ感染防止のため消防署に来校していただけず、独自に防災避難訓練を行った。

夜の校舎屋上に避難

消火訓練

防災クイズ



津波シミュレーション

新翔高等学校

実施日時	令和５年１月２５日（水）
参加者	生徒５２名、教職員１１名、計６３名
実施内容	（例）ＤＶＤ視聴、応急手当、救急法、ロープワーク、ライフハック、

ねらい

１　近い将来予想される南海トラフ地震をはじめ、自然災害に備えて本校生徒の防災への意識を高める。

２　地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的として、関係機関連携のもと、防災・減災に関するより専門的な知識や技術を習得し、地域防災リーダーの育成を図る。

主なプログラム

１　紀伊半島大水害についてのＤＶＤ視聴

２　自衛隊による災害時おける防災訓練

・応急手当・救急法

・ロープワーク

・ライフハック

概要

１　１学年５２名と教員１１名でＤＶＤを視聴し、紀伊半島大水害について学習。

２　各クラスごとに、応急手当・救急法、ロープワーク、ライフハックに分かれて自衛隊による防災訓練に参加。各部門４０分とし、ローテーションを行う。

参加者感想文

■応急手当・救急法

・止血の方法や毛布や上着で担架が作れることを学びました。緊急の時は身近にあるもので対応しなければいけないので今日学んだことを忘れないようにしたいです。

・運ぶ側と運ばれる側で感じることが全然違いました。運ばれる体験では少し怖いと思う点があったので、実際に運ぶ側になったときは、相手が不安にならないような運び方をしなければいけないと思いました。

■ロープワーク

・自衛隊の方が親切に教えてくださったので、すべての結び方ができました。自衛隊の人は結ぶのが早くてさすがだなと思った。自分もあれぐらいのスピードでできるようになれば、誰か助けることができるかもと思った。
・もやい結びと身体もやい、一重継ぎを学んだ。結び方によって活用方法が違うことを教えてもらった。

■ライフハック

・新聞紙で簡単な食器を作ったり、ビニール袋や水を使ってランタンを作ることができることにびっくりした。簡単に作れることがわかったので、災害が起こったときにも活用できると思った。
・非常食が水だけで作れることに驚きました。あまりおいしくないイメージだったけど、とてもおいしかったです。

成果と課題

【成果】

今年度は自衛隊の協力を得て、生徒に様々な体験をさせることができた。実際に災害が発生したときに、身近に使えるもので対応できることや、どのように行動すべきかを学ばせることができた。当日の様子や事後の感想からも、真剣に取り組み、考える姿が見られ、非常に貴重な時間であった。今後も関係機関の協力を得ながら、さらに充実した防災スクールの内容を検討する。今回は大雪の影響により、生徒の約半数が登校できない中での実施となったが、非常時での実施となった分緊張感を持って訓練に臨むことができた。

【課題】

今年度はコロナ禍の影響で、地域の人と共に取り組む形をとることができなかった。本来であれば、地域の人と共に取り組むことは、災害時に活かせると考えるため、来年度は可能な範囲で、地域との連携を進めていく必要があると考える。

伊都中央高等学校

実施日時	令和４年９月２２日（木）
参加者	生徒１２５名、教職員３０名、　計１５５名
実施内容	搬送法、新聞紙でトイレ・スリッパつくり、クロスロード、DVD 視聴

ねらい

１　近い将来予想される南海トラフ大地震を始め、自然災害に備えて高校生の防災への意識を高め、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成を目的とする。

主なプログラム

１　搬送法、新聞紙で簡易トイレ、スリッパつくり
２　クロスロード（災害対応カードゲーム）
３　DVD「犠牲者ゼロをめざして」視聴
４　非常食（アルファ化米・個包装）の紹介・持ち帰り
５　振り返り、感想記入

概要

１　昼間コースと夜間コースに分かれて実施した。
２　計画では、「ごりょうくん」で地震体験をする予定であったが、雨天のため中止となり、急遽搬送法と、トイレ・スリッパつくりをプログラムに組んだ。
３　搬送法、トイレ・スリッパつくりは体育館にて、クロスロードは各 HR 教室、DVD 視聴は視聴覚教室にて、学年でローテーションを組んで実施した。

参加者感想文

・搬送法、新聞紙でトイレ・スリッパつくりを体験して
　人を担架を使わずに運ぶ方法を学び、一人よりも二人で運んだ方が安定することが分かった。
　新聞紙一枚で簡単に作れるから、自分でもできた。
　災害時に役に立ちそう。
・クロスロード（災害対応ゲーム）を体験して
　YES か NO を決めるのが難しかったし、決めた理由を言うのも難しかった。
　みんなの意見を聞いて、なるほどと思うことが多く、勉強になった。
　ゲーム形式で災害について学ぶことで、楽しくみんなの意見が聞けてよかった。

様々な意見を柔軟に交わし、当時の状況に合わせた判断をできるようにすることが大事だと思った。

・DVD「犠牲者ゼロをめざして」を視聴して

一人で逃げられることを親に言っておかないと、親は子どもを迎えに行ってしまうことを知り、不安になりましたが、きちんと親と話し合おうと思った。

もっと危機感を持たなければいけないと思った。

避難訓練はやっぱり意味があると思った。

南海トラフ地震に向けて、しっかりと対策をしないといけないと思った。

成果と課題

【成果】

・クロスロードや搬送法など、自分ごととして考え、取り組むことができた。

・仲間とともに取り組むプログラムが多く、コミュニケーション力を養い、自分と違う意見も尊重する態度を身につけることができた。

【課題】

・生徒が楽しみにしていたごりょうくんが中止となり、大変残念であった。来年こそは実施したい。

きのくに青雲高等学校定時制

実施日時	令和４年　９月２８日（水）
参加者	生徒１１０名、教職員４０名、計１５０名
実施内容	避難訓練、防災スクール

ねらい

1. 近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震をはじめ自然災害に備え防災意識を高め、スムーズに行動できるよう避難経路や避難行動を確認する。

2. 地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

１．避難訓練。
２．「防災ハンドブック」「世界津波の日」等を使った防災教育。

概要

１．地震発生、火災発生による避難を想定した訓練。
２．「防災ハンドブック」「世界津波の日」等を使って学習。

参加者感想文

・避難経路を確認することができた。
・津波の怖さを再確認した。
・実際の地震では、うろたえて、うまく行動できない気がする。

成果と課題

【成果】

①避難訓練や「防災ハンドブック」「世界津波の日」等を使った防災教育をすることによって、災害についての知識をもち、災害に備える意識を高め、災害から命を守ることの大切さを学ぶことができた。

②校内避難経路の確認をすることができた。

【課題】

①訓練であるため、緊迫感のない生徒もいた。緊張感をもった行動を取らせるための工夫が必要である。

②実際に地震等の災害が起こった時に、その場の状況に応じて臨機応変に判断・行動・対応できる能力を養わなければならない。

南紀高等学校　通信制課程　田辺学級・新宮学級

実施日時　　１１月　６日（日）１３：０５～

参加者　　田辺学級生徒１２人　　新宮学級生徒３人　教職員８名

実施内容　　避難訓練の実施と防災学習（田辺学級、新宮学級で実施）

時　間	実　施　内　容
13:05 ～	1）地震･津波が発生した場合の避難訓練（概要の説明と実施） 訓練用緊急地震速報のアナウンスによるシェイクアウト訓練 ①教室の扉を開けて机の陰に避難の指示 ②避難経路の確認（担当が説明する） （田辺）玄関を出て田辺高校側の通路により運動場へ避難すること （新宮）新宮高校裏門側の通路により中庭へ避難すること
13:30 ～	2）防災学習 ①動画「南海トラフ巨大地震」 （約16分） ②和歌山県における避難先の考え方の説明 ③避難カードについて説明と作成 ④（田辺）田辺市ハザードマップの確認 （新宮）新宮市ハザードマップの確認

成果と課題

南海トラフ地震についての認識を深め、身の安全を確保するといった初期対応などの大切さを理解することができた。通信制のため、生徒が一斉に登校することはないので、どうしても参加する生徒が少なくなる現状がある。

南紀高等学校

実施日時	令和４年４月１５日（金）～１１月１１日（金）
参加者	生徒２１９名、教職員４８名、地域住民等０名　計２６７名（延べ人数）
実施内容	地震シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所運営ゲーム訓練、 救急救命講習、アルファ米作り、映像視聴　等

ねらい

１．実施形態

定時制昼間部、定時制夜間部の課程別にそれぞれの生徒の実態に即した実施形態とするため、特定の日に絞らず、複数回に分散して実施。生徒指導部を中心に担任や関連教科の教員が担当を分担する形式で準備を進めた。

２．使用教材

「きいちゃんの災害避難ゲーム」、「HUG」
世界津波の日パンフレット等

主なプログラム

１．避難訓練（夜間定時制）
２．「きいちゃんの災害避難ゲーム」（夜間定時制）
３．避難訓練（昼間定時制）
４．救急救命講習事前学習（昼間定時制）
５．救急救命講習及び避難所運営ゲーム（昼間定時制）
６．救命救急講習（夜間定時制）

概要

１．4月15日（金）

大地震後の停電と津波を想定し、屋上への避難及び担架による搬送訓練を実施。夜間定時制の活動時間を踏まえ、暗闇の中を懐中電灯や携帯電話で照らしながらの避難を試みた。その後、２次避難場所への経路及び備蓄品貯蔵庫を確認。　生徒１４名

２．７月７日（木）

西牟婁振興局からお借りした「きいちゃんの災害避難ゲーム」を用いて、災害避難に関する事前準備の大切さを学んだ。

生徒１７名

３．１０月３日（月）

巨大地震を想定したシェイクアウト訓練及び避難訓練を実施。地震にともなう火災も想定し、避難経路の確認を行った。生徒７５名

４．１０月１８、２５日（火）

田辺市消防本部による救急救命講習の事前学習として、Eラーニングによるビデオ学習及びテストを受講した。　生徒３０名

５．１１月１日（火）

1年生は、田辺市消防本部による救急救命講習を受講。AEDの使用法、胸部圧迫法、止血法等を学習した。

2年生は、西牟婁振興局からお借りした「きいちゃんの災害避難ゲーム」を用いて、災害避難に関する事前準備の大切さを学ぶ。また、災害時を想定し、アルファ米を水から作成した。

3年生は、「HUG」を用いて、様々な状況

に応じて、どう避難所を運営していくか、また避難する上でどういうことが重要になるかについて学んだ。　　生徒６７名

６．１１月１０日（木）

夜間部の全学年が、田辺市消防本部による救急救命講習を受講。AEDの使用法、胸部圧迫法、止血法等を学習した。　　生徒１６名

参加者感想文

- 事前準備がないと、死ぬ確率が高いことがよく分かった。
- 事前準備できそうな項目が分かり、帰ってから家の人と話し合おうと思った。
- 救急救命では、人形で実際にすることができてよかった。何かあれば、できることをしようと思った。
- 予測できていないことが多く、時間が足りなかった。
- 食料や水は絶対いると思ったのと、ヘルメットを持っていたことで回避できたのでよかった。家具を固定したことやブレーカーを耐震対策したことや避難訓練をしたのも大きかったと思う。
- 高いところや避難場所までの道で土砂くずれがおきないかチェックする。なにがおきてもいいように必要な物をかばんに入れたり（食料や水、救急セット、懐中電灯など）、もち出しやすい場所においておく。雨具なども入れておくといいと思った。

成果と課題

【成果】

- 地震や津波への対応についてしっかりと考えさせることができた。
- 夜間に発生した地震や津波への対策に再認識し感想を共有することができた。
- 災害時における、事前準備の重要性が認識できた。
- 避難所運営訓練の実施に伴い、避難所としての物品の確認をしたり、実際にアルファ米を作成できてよかった。

【課題】

- 定時制昼間部、定時制夜間部、通信制田辺学級、通信制新宮学級で防災学習を一斉に実施する機会として、学校祭での学習発表などとも組み合わせながら、生徒の実態に応じた防災学習を３部課程で計画的、段階的に進めていく予定であったが、学校祭の内容変更に伴い実現には至らなかった。
- 在宅中や登下校中における各自の避難経路の認識や避難マップの作成など、具体的で実践的な学習内容の充実を図りたい。
- 避難所運営を体験し、被災後の生活は長くなるため、社会制度や補償制度について深められるような取組を考えていく必要がある。
- 避難する上での、事前準備の大切さは認識できたが、具体的な方法まで共有できればよかった。
- 以前昼間部で好評であった「ごりょうくんの地震体験」を今年度昼夜間部で計画していたが、日程が合わず実施できなかった。次年度は生徒に体験させたい。

防災学習の様子

避難所運営訓練（HUGによる想定訓練）

避難所運営訓練（HUGによる想定訓練）

きいちゃんの災害避難ゲーム

アルファ米作成

心肺蘇生法（昼間部）

救急救命講習（夜間部）（心肺蘇生法）

紀北支援学校

実施日時	令和４年７月１９日（火）・１２月２０日（火）
参加者	生徒９０名、教職員３５名　計１２５名
実施内容	濾過装置作り、避難所体験、アルファ化米利用、防災クイズ

ねらい

１　体験学習を通して、防災への意識を持ったり、高めたりする。

２　地震が起こったときの対応について自分の意見を話したり、他者の意見を聞いたりする。

主なプログラム

（グループ別に実施）

Ａグループ：ペットボトル濾過装置作り

Ｂグループ：避難所体験

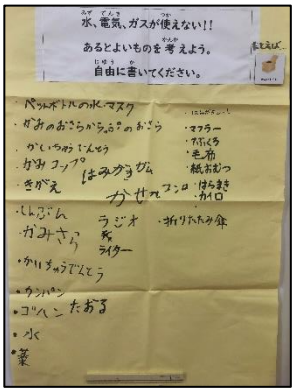
アルファ化米作りと試食

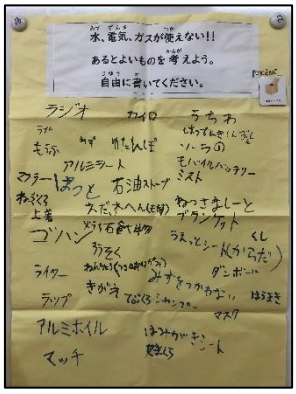
防災クイズ

概要

Ａグループ：災害の動画やイラストを見て、避難先で何が必要になるかを確認した。飲み水が無くなった時に、汚れた水をきれいにする「ペットボトル濾過装置」作りを行った。汚れた水を濾過装置に入れ、きれいになる様子を観察した。

Ｂグループ：避難所体験は６、７名のクラス毎に入れ替わり制で行った。受付を済ませ、ダンボールパーティションで区切られた空間で一定時間過ごしたり、災害時用トイレの体験をしたりした。また、災害に備えて準備するものをイラストカードで選んだり、考えたりした。最後にライフラインが絶たれたとき、必要なものを話し合い、みんなが後で確認できるように模造紙に書いた。





・アルファ化米利用は感染症対策のため作るところから試食まで、完全に１人でできるように１食分のアルファ化米と水を用意して行った。
・防災クイズは、総合的な探究の時間に学習した内容も取り入れた。知識を問うものと、教室内で実際にやってみる課題、考えたり話し合ったりする課題をパワーポイントで提示した。

参加者感想文

Ａグループ：水を入れるときれいになって行く様子がわかりました。
Ｂグループ：避難所で生活するときは、周りの人に優しくしたい。騒ぐ人や文句を言う人がいたら嫌だから、自分もしないように気をつけたい。
　アルファ化米がおいしいから安心した。作り方がわかって良かった。
　防災クイズは簡単だった。家族と決めている避難場所が答えられてよかった。

成果と課題

【成果】
　濾過装置は、作るところから体験でき良かった。水の変化もよく観察できていた。
　避難所体験では、「眠れないかも･･･」、「隣の人が怖かったらどうしよう」、「暑い(寒い)時はしんどいなあ」等、不安に思うことを伝えることができ、その場で教師と一緒に対処法を考えることができた。
　ライフラインが絶たれたときに必要なものを話し合う際、総合的な探究の時間に学習したこと、報道で知ったこと、経験した人から聞いたこと等を踏まえて意見を言える生徒もいた。話し合いではお互いの意見を尊重し、必要なものを複数あげることができていた。
【課題】
　知ること、体験すること、準備することを通して、防災への意識を高め、命を守る正しい判断ができるように、今後も繰り返し取り組む。
　学校での学習を地域生活で生かすことができるよう、家庭と連携し、生徒に起こりうる状況を想定して取り組む。

紀伊コスモス支援学校高等部

実施日時	令和４年７月１日（金）
参加者	生徒５８名、教職員２０名、　計７８名
実施内容	（例）避難所運営訓練、応急手当、マイトイレ作り　等

ねらい

１　防災に関する知識や技術を知り、防災意識高める。
２　安全に行動する方法を知り、迅速な避難や的確に判断する能力や態度を養う。

主なプログラム

１　災害についての学習
２　避難訓練

概要

１　実際の災害の様子や避難の様子を見る。
　校内で、災害（火災・地震）が起きたときの避難の仕方（災害発生時の行動・避難経路等）について。
　校内にある防災グッズの体験や防災設備調べ。
２　火災・地震を想定した避難訓練の実施。緊急地震速報や校内非常ベルを実際に聞き初期行動や安全な避難行動を学習し実践する。

参加者感想文

実施していません。

成果と課題

【成果】在籍生徒の実態の把握ができた。実際の災害時をイメージして一人一人の障害特性に合わせた避難の仕方や全体での動きを話し合う機会となった。また、防災学習を通じて、生徒・教員の防災意識の向上にもつながった。
【課題】生徒個々に合わせた防災グッズの準備。学校の立地条件（土砂災害警戒区域）を意識した防災学習と避難訓練。

みはま支援学校

実施日時	令和４年６月２日（木）
参加者	生徒２４名　教職員５０名
実施内容	地震津波避難訓練、防災リュックについて、浮くっしょんの着用、非常食の試食

ねらい：大地震発生時の安全確保の方法及び、避難経路、避難方法の確認を行う。
実際に避難場所まで避難する訓練を行うことで、地震発生時の避難について見通しを持つ。

事前の取り組み

「防災学習」年間計画への位置づけ及び事前取組 本校では、避難訓練、避難経路の確認等を定期的に行い、日ごろから防災に関する注意喚起を行っている。６月に地震津波避難訓練として、和歌山病院５階屋上まであがる訓練をおこなった。その際には、教室環境の見直しや危険物の撤去、いざという時に取るべき行動など、それぞれの実態に合った防災についての学習を進めた。また、常備している防災リュック（缶詰２缶・パン１缶・アルファ米・レスキューフーズ１食・水２ℓ 等）を背負いライフジャケットを持参し、避難した。

主なプログラム

１３：４０　地震の放送
１３：４５　和歌山病院５階へ避難の開始
１４：００　避難完了・講評
１４：０５　クラスに戻る
　　休憩
１４：３０　避難訓練の感想を書く
１４：４５　浮くっしょんを着用する
１４；５０　防災リュックの中身を考える
１３：１０　非常食を試食する

【概要】

和歌山病院５階への避難

浮くっしょんの着用

参加者感想文

・自分のことについては、外へ出る際につい靴を履き替えようとしてしまったこと、防災グッズを取りに教室へ戻ろうとしてしまったことが反省です。
・避難する時間はもう少し縮めることができそうでした。
・避難グッズをもって行けなかったので本番でそうなったらどうしようかと思いました。屋上なので暑くても逃げなくてはいけないのは大変だと思った。
・訓練とわかっていても本当に緊張しすぎたので、もう少しリラックスして、冷静な判断ができるようにしたい。
・ヘルプが必要な生徒がいて、「誰かあと一人来てください！！」と叫んでも、だれもヘルプに来てくれなかった。個人名で助けを求めると来てくれた。役割はきまっているが、ヘルプが必要な生徒のことをもっと意識しておいて欲しいと思いました。

成果と課題

毎年、避難訓練を実施しているので避難経路や地震が来たときの対応は皆、完璧にできていた。その反面、訓練ということで見通しがある中で少し緊張感が低い人もいたのが課題である。